

平成 29 年度

湖南省教育委員会事業評価

湖南省教育委員会

評価報告書

平成 29 年度

湖南省教育委員会評価委員会

平成 29 年度 湖南省教育委員会評価委員会の実施について

本委員会では、湖南省教育委員会事業評価を外部評価委員の体制で実施し、今日までの評価項目全体を評価するのではなく、毎年度実施する所管課の最終評価を踏まえ、継続的に目標を達成している事業などについては、所管課の評価を尊重し、今後、市の教育においてさらなる取組が必要な重要項目に対し、委員会として評価を行うこととした。

平成 29 年度は、別紙に掲げる 4 事業を評価対象とし、各委員からの意見をもとに、総評および各項目に対する講評を行った。

今後は、本報告書に記載してある評価をもとに平成 30 年度以降の取組の改善を進められ、さらなる本市の教育の向上を願うものである。

平成 30 年 5 月 22 日

湖南省教育委員会評価委員会

委員長 横山 幸司

外部評価実施内容

- ①日 時 平成 29 年 11 月 27 日（月）午前 10 時 00 分から
場 所 湖南省役所西庁舎 3 階大会議室
- ②日 時 平成 30 年 5 月 22 日（火）午前 10 時 00 分から
場 所 湖南省役所西庁舎 3 階大会議室

評価体制

外部評価委員（評価委員会委員）

横 山 幸 司（委員長）
山 中 恒 男（副委員長）
奥 田 援 史
平 地 幸 美
松 島 静

評価対象事業数

4 事業（平成 29 年度最終評価シート 39 項目の内）

対象事業

- 資料No.15（生涯学習課）
 - ・関係機関と連携した活動実施、課題をもつ少年の対策・居場所づくり
- 資料No.25（生涯学習課・図書館・学校教育課）
 - ・「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づく読書活動の推進
- 資料No.35（教育総務課）
 - ・学校給食の効率的な運営
- 資料No.39（学校教育課）
 - ・主権者教育の推進

【総 評（全体）】

各事業の評価については、各委員より述べられたことがすべてである。

全体の総括としては、評価の基になっている湖南省教育振興プランの計画期間が平成31年度をもって終了することから、次期教育振興プランの策定について申し上げたい。

他自治体においても、策定された計画と評価が乖離していることがあるが、湖南省においても一部乖離しているところが見受けられる。乖離の原因としては、計画策定と評価を分けて認識しているところにあると考える。計画を策定する際は現在の業務の棚卸が必要で、現在行われている政策・事業を漏れなく把握しなければならない。

その後、今実施している事業は本当に必要なのか、民間委託の可能性など今後の方向性について仕分ける作業がある。この作業を経て、新しい教育振興プランを策定することになる。したがって、計画に示された政策・事業の目標や指標は、計画策定段階で明確にされていることが本来の姿である。

湖南省教育委員会評価委員会は、現在の教育振興プランに基づいて事業評価を行っているが、次期教育振興プランの策定にあたっては、まずは現在に示された計画の事業仕分けを綿密に行い、評価基準にいたるまでを念頭に置きながら、策定に取り組んでいただきたいと希望し総評とする。

【講評（事業別）】

○資料No.15（生涯学習課）

- ・関係機関と連携した活動実施と、課題をもつ少年の対策・居場所づくり

【コメント】

- ・さまざまな要因により就労の定着が困難な青少年には、現在も実施されている就職後のフォローアップを続け、就労が定着できる取組を継続していただきたい。
- ・個々の課題に向き合い、家庭との連携を保ちながら、適切な支援・質の高い支援を目指し、これからも（職員の力は勿論のこと、関係機関の協力を得ながら）課題を抱える少年たちの居場所づくりに、また就学就労支援に努めていただきたい。
- ・課題を抱える子どもたちの大きな要因としては、子どもたちの存在する環境や関わる人など、さまざまな原因が考えられる。課題の解決には、子ど

もだけでなく家庭への支援も不可欠だと思うが、それが難しいこともよく理解できる。子どもたちには、自律できる力・持続できる力を育てることが必要であり、支援に携わる大人たちには活動を持続させることが大切だと感じた。関係機関と協力され、より活動が充実できることをお願いしたい。

○資料No.25（生涯学習課・図書館・学校教育課）

- ・「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づく読書活動の推進

【コメント】

- ・子どもへの読み聞かせは大切であることから、家庭内で実践できる取組を検討していただきたい。
- ・関係各課において推進体制の調整や進行管理方法の検討が進んでいないといった評価が2年連続でされていることが気になる。その要因を探るとともに、違った枠組みでの調整を試みる必要がある。
- ・本への誘いの機会は、子どもの生きる力・考える力を育む必要不可欠な時間だ。ブックトークによる学習の時間は必要だと考えるが、司書や教員の書籍や資料の提示方法、話し方により子どもの誘い方に違いが生まれていると考える。この違いをなくすため、司書や教員を対象とした研修・学び合いの場を設けていただきたい。
- ・家庭内読書は、家庭により大きな差がある。保護者が全く本に興味がない家庭で育った子どもは、学校以外での本との関わりが希薄であり、卒業後は、本と読書活動から離れていく傾向にある。家庭内読書の推進は、継続的かつ具体的な方策が必要である。
- ・移動図書館マツゾウくんの巡回が学校から遠のいたことを寂しく感じている。本に出会う機会が減り、読書活動の推進に逆行しているように思うため、再度検討をお願いしたい。
- ・移動図書館マツゾウくんが学校を巡回することは大切であるが、全員サービス、移動図書館車の老朽化も踏まえると、ある程度縮小は仕方がないかもしれない。この事業に代わる事業・サービスを模索していただきたい。

○資料No.35（教育総務課）

- ・学校給食の効率的な運営

【コメント】

- ・多様なアレルギー品目に対応するアレルギー対応マニュアルを作成し、保護者に周知いただきたい。直接給食に携わる給食委託業者や調理員の方々を対象に安全安心な給食を提供するための研修が必要ではないか。
- ・食物アレルギーを持つ子どもが市内においても増加傾向にあるが、アレルギー対応が進んでいない実情を残念に思う。ぜひ、他府県や他市町の実態調査をおこない、先進事例に習った一歩進んだ取組をしていただきたい。
- ・食物アレルギーや投薬に伴う食事制限から、牛乳の停止や給食の代わりに弁当を持参する場合の給食費の調整について、今後検討していく必要がある。
- ・すべての子どもたちが、楽しい給食の時間を共有し、また給食の時間を通して食について学び合えることが大切である。誰もが安心して食べられる給食の提供をお願いしたい。
- ・湖南省のアレルギー対応は全国水準と比較してどの程度のことのできているのか、この資料だけでは判断できない。全国のさまざまな給食センターに目を向け、広い視野を持ったセンター運営が必要ではないだろうか。また、研修会や試食会を実施するだけでなく、実施後に効果の検証を行うことも必要である。

○資料No.39（学校教育課）

- ・主権者教育の推進

【コメント】

- ・まずは主権者教育推進の意識化を図ることが必要である。全国の先進的な事例を参考に発達段階に応じた取組を進めていただきたい。
- ・課題意識を持つために、日常生活において友達・家族・地域の方たちと、社会問題や地域の課題、学校の問題について語り合う機会があっても良いのではないか。主権者教育として、社会の仕組みに目を向けるような取組を実施いただきたい。
- ・主権者教育は、子どもが地域にでて活動することだけを指すのだろうか。今一度原点に立ち帰り、子どもが政治に参加することを学ぶことが重要だと考える。全国的にも、湖南省としても、主権者教育の方向性が定まっていないように感じる。選挙管理委員会や議会を活用することも検討いただきたい。

平成 29 年度

**湖南省教育委員会評価委員会
(最終)**

湖南省教育委員会

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	伊藤照男

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携と協働により教育力を高める
施策	1	家庭・地域の教育力を活かした地域学校支援の充実

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域と共に歩む学校づくり		
実施事業	学校運営協議会、地域学校協働本部の設置 地域学校協働活動の充実		継続
主な財源 (千円)	歳入	補助金	5,068
	歳出	報償費(謝礼)、消耗品費、役務費(保険料)	7,604

3. 今年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市内で小学校1校、中学校1校で学校運営協議会の設置を行うため、文部科学省CS導入等促進事業(補助事業)を受けて2年間実践研究を進める必要がある。
改善の方向性	地域住民の幅広い参画する体制づくりや、学校運営協議会での熟議を行い、学校と保護者・地域住民が課題を共有し、共通の目標ビジョンを持って一体となって地域の子どもたちを育てていく。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学校運営協議会、地域学校協働本部の設置
取組内容(活動指標)	・平成29年度CS導入等促進事業の研究推進校は水戸小(1年次)、甲西北中(1年次)の2校。この2校がコミュニティ・スクール導入に向けた研究推進を行う。 ・平成29年度より従来の「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」と置き換え、市内各小・中学校すべてに設置する。(13本部)
目標(数値目標)	各学校ごとに地域の担い手となる子ども育てが持続するように取組の充実を図り、学校や中学校区の状況や実情を踏まえ、「地域学校協働本部」を13本部立ち上げる。
達成効果(成果指標)	各まちづくり協議会や地元企業との連携や協働が進むようになり、各学校の状況や実情に即して「地域とともにある学校づくり」が進展していく。
実施事業	地域学校協働活動の充実
取組内容(活動指標)	・市の財源措置と各校の計画、判断等から、地域学校協働活動、土曜日の教育支援活動、放課後子ども教室事業、家庭教育支援総合推進事業の取組を学校と地域が双方向に連携・協働する活動を進める。
目標(数値目標)	「学校は地域へ、地域は学校へ」を合い言葉に「地域とともにある学校づくり」を市内8校コミュニティ・スクール、市内13地域学校協働本部で実施する。
達成効果(成果指標)	各地域まちづくり協議会や地元企業等との連携や協働体制が進み、各校の状況や実情に即し、「地域とともにある学校づくり」が進展する。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学校運営協議会、地域学校協働本部の設置
実施内容(進捗実績)	平成29年度コミュニティ・スクール(以下、CS)の指定校は下田小、日枝中。市内でCS指定校は小学校6校、中学校2校。設置率は約62%。校報、コミュニティ通信、啓発リーフレット等の発信により、地域と学校の連携の実際の認知度を高めている学校が3~4校増えている。
実施事業	地域学校協働活動の充実
実施内容(進捗実績)	平成29年度市内全小・中学校で、学校支援地域本部から地域学校協働本部へ移行。各校の取組状況に差はあるものの、校区連携や連携・協働体制に力点を置いた事業の展開を進めている学校が増えつつある。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学校運営協議会、地域学校協働本部の設置	平成29年度コミュニティ・スクール(以下、CS)の指定校は下田小、日枝中。市内でCS指定校は小学校6校、中学校2校。設置率は約62%。校報、コミュニティ通信、啓発リーフレット等の発信により、地域と学校の連携の実際の認知度を高めている学校が3~4校増えた。	Ⓐ B C D
地域学校協働活動の充実	平成29年度市内全小・中学校で、学校支援地域本部から地域学校協働本部へ移行。各校の取組状況に差はあるものの校区連携や連携・協働体制に力点をおいた事業の展開を進めている学校が3~4校増えた。	Ⓐ B C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	市内小学校、中学校で学校運営協議会の設置を推進するため、文部科学省CS推進体制構築事業(補助事業)を受けて持続可能な体制づくりを進めていく必要がある。
改善の方向性	地域住民の幅広い参画や、学校運営協議会での熟議を行い、学校と保護者・地域住民が課題を共有し、共通の目標ビジョンを持って一体となって子ども育てを進める組織体制を構築していく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	伊藤照男

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携・協働により教育力を高める
施策	2	自律・協働・創造力をもつ子どもの育成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	体験的活動の推進		
実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働		継続
主な財源 (千円)	歳入	補助金	247
	歳出	報酬(委員報酬)、報償費(謝礼)、消耗品費、印刷製本費、負担金	1,005

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学校の今の児童・生徒の姿を知らせる取組が増え、学校支援活動に関わる人の意識が高まる中で、地域全体で子ども育てに取り組もうとする気運をさらに高めていく必要がある。
改善の方向性	学校の支援だけに留まらず、地域と学校が双方向に連携・協働し、子どものよさや課題等を共有し、子ども育てに関わってくださる「地域学校協働活動」へと発展させて取り組む。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働
取組内容(活動指標)	学校の支援だけに留まらず、地域と学校が双方向に連携・協働し、子どものよさや課題等を共有し、子ども育てに関わってくださる「地域学校協働活動」へと発展させる。
目 標(数値目標)	「学校は地域へ、地域は学校へ」を合い言葉に「地域とともにある学校づくり」を市内8校コミュニティ・スクール、市内13地域学校協働本部で実施する。
達成効果(成果指標)	学校の活動に関わる人の意識を高めることで、地域全体で子どもたちを育む気運が盛り上がってくる。子どもを取り巻く現状や学校の取組が伝わる中で、地域あげて子ども育てに取り組む気運、組織体制へ発展していく。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働
実施内容(進捗実績)	子ども育てをめざした連携・協働の取組が進み、学校や地域における児童・生徒の育ちの姿を知らせる発信から児童・生徒の成長を感じることができる学校が出てきた。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
コミュニティ・スクール・地域学校協働本部における地域との連携・協働	子ども育てをめざした連携・協働の取組が進み、学校や地域における児童・生徒の育ちの姿を知らせる発信から児童・生徒の成長を感じることができる学校が増えてきた。	Ⓐ B C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	地域学校協働活動に関わる人の意識が高まる中で、地域全体で子ども育てに取り組もうとする気運を高めていく必要がある。
改善の方向性	学校支援だけに留まらず、地域と学校が双方向に連携・協働し、子どものよさや課題等を共有し、子ども育てに関わる「地域学校協働本部」「コミュニティ・スクール」を発展させていく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊晋
担当者	長谷川洋介

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携と協力により教育力を高める
施策	3	将来の夢や目標をもてる子どもの育成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	キャリア教育の推進		
実施事業	職場体験学習の実施		継続
主な財源 (千円)	歳入	交付金	395
	歳出	報償費(謝礼)、消耗品費、印刷製本費、役務費(保険料)	445

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	中学2年生の職場体験学習が卒業時の進路決定に十分活用できていないところがある。
改善の方向性	職場体験学習の受入れ事業所をさらに開拓し、子どもたちの興味がある体験を充実させる。また、義務教育期間中に系統立てた指導を行い、進路選択の幅を広げる取組を行う。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	職場体験学習の実施
取組内容(活動指標)	中学2年生の時期に実施する職場体験学習を充実した取組にする。また、中学1年生、3年生時の進路学習において、高校受験に向けた進路学習に限らず、将来の仕事選びに幅広い選択ができるようなキャリア教育を進める。
目標(数値目標)	全中学校において、キャリア教育の年間計画に沿った学習を進め、勤労への意欲や将来への希望を持つ生徒を育成する。
達成効果(成果指標)	職場体験学習を中心とした進路学習を通して、将来の夢や希望を持って努力できるようになる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	職場体験学習の実施
実施内容(進捗実績)	中学2年生では、予定通り「職場体験学習」を実施できており(1校は10月実施予定)、有意義な体験学習となった。体験学習後の学習(発表会・レポートづくり)にも力を入れ、進路選択の幅を広げる取組を行っている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
職場体験学習の実施	予定通り「職場体験学習」を実施し、有意義な体験学習をすすめることができた。また、事後の報告会等を行い学びを深めることができた。	Ⓐ B C D

7. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	受入れ事業所が、十分確保できず、生徒が希望する職種の体験ができないことがある。
改善の方向性	職場体験学習の受入れ事業所をさらに開拓し、子どもたちの興味がある体験を充実させる。また、義務教育期間中に系統立てた指導を行い、進路選択の幅を広げる取組を行う。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	林 清隆

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	1	多様な学習機会の充実

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域に密着した学習機会の提供と地域の文化・人材の育成	
実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施	継続
主な財源 (千円)	歳入	
	歳出	委託費、消耗品費
		467

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学習と行動が循環する生涯学習社会の実現に向けて、また多様な担い手を創出するためにも、学びの成果を活かした市民企画運営による多種多様な事業が展開できることが望まれる。また、実施事業参加者数の増も含めた事業の充実度を計ることが必要である。
改善の方向性	意欲ある市民による幅広い分野での応募と実施事業への多数の参加に結びつくよう募集要項や広報等を工夫する。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施
取組内容(活動指標)	市民生涯学習講座の委託を実施。総額40万円。5月の広報で企画を募集し、5月中旬に締め切る。教育委員会内部の審査会に諮って、各事業の採択の可否と分配金額を決定する。新規事業や新規応募団体、実施事業参加者数の増加を図るための工夫も行う。
目標(数値目標)	自らの学びを活かして、発信・企画する意思のある市民を支援し(応募団体の視点)、市民に生涯学習の多様で有意義な機会を与える(参加者の視点)。応募団体数、事業数、事業参加人数が前年度同数またはそれ以上になるようにする。
達成効果(成果指標)	地域の人材を発掘し活用することで、多様な学びの機会の提供ができる。また、学びの機会を得た参加者が、発信・企画者となって、学びの輪が広がっていく効果も期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施
実施内容(進捗実績)	9団体・10事業の応募があり、6団体6事業を採択(パソコン講座、プログラミング教室、法律講座、陶芸・パン講座、こども店長マルシェ講座、こども向け体操教室)した。各事業とも計画通り進んでいる。今年度は新規に5団体からの応募があった。応募団体・事業数とも前年度(3団体4事業)より増加した。新規事業や新規応募団体の増加を図るため、5月に広報記事の掲載(紙・ホームページ)、各まちづくりセンター等へ要項を設置した。実施事業参加者数の増加を図るため、7月から広報誌に講座等のおしらせの掲載、チラシの配布等の協力をした。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市民生涯学習講座委託事業の実施	採択された6団体6事業は、すべて計画どおり実施された。6団体・6事業の参加者は、「パソコン実践指導」と「IT推進リーダーレベルアップ」講座延べ227人、育てエンジニア! プログラミング教室延べ24人、知っておきたい法律の基礎知識講座延べ58人、「こねる」「つくる」「やく」パン&信楽焼体験講座延べ100人、わたしのお店~子ども店長マルシェ~講座延べ17人、ぶきっちょさん、集まれ~講座(こども向け体操教室)延べ43人。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	学びと学習成果の還元が循環する生涯学習社会の実現に向けて、企画提案者の多様な担い手を創出するためにも、学びの成果を活かした市民企画運営による多種多様な事業が展開できるようにするとともに、実施事業参加者数の増も含めた事業の充実を図ることが、引き続き必要である。
改善の方向性	意欲ある市民による幅広い分野での応募に結びつくよう、募集期間の設定などの見直しを行う。また、実施事業への参加者が増加するよう広報等を工夫する。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	図書館
所管長	今井 操
担当者	播口 嘉紀

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	1	多様な学習機会の充実

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	公立図書館の充実		
実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進		
	案内表示や利用チラシの作成・配布やホームページ等を利用した広報		
	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働		
主な財源 (千円)	歳入	自治振興交付金等	16,800
	歳出	人件費 53,868 報償費 44 消耗品費 70 備品購入費 16,813	70,795

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民の学びの質を高め、より多くの市民に利用・活用されるために、蔵書の充実を図るとともに、案内表示を工夫するなど、利用しやすい環境をつくる必要があります。また、より良いサービスを提供するとともに、図書館利用について効果的PRを図ることが必要です。
改善の方向性	市民のニーズを把握し、資料を知る職員が資料と市民を結びつけることができるよう、両図書館と移動図書館で蔵書の充実を図る。 施設内では、だれもが快適に利用できる環境を整えるとともに、社会の変化に対応したサービスの実施に取り組む。 利用案内チラシやホームページを活用することで、市民の声を聴きながら、図書館を利用していない人へのPRを図る。 図書館におけるボランティア活動を支援し、その学習の成果を活かした活動の場の提供に努め、地域との協働を図る。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進
取組内容(活動指標)	資料収集計画に基づき資料購入(新刊書、買い替え本含む)を行うとともに、地域資料の整理を進める。
目 標(数値目標)	資料費の有効活用を行い、地域資料の提供スペースを拡大するなど、開架および書庫の配架変更も検討しつつ適正な配架に努める。
達成効果(成果指標)	市民の知る自由を保障し、暮らしに役立つ図書館、まちづくりに役立つ地域を知ることのできる図書館として、市民生活への浸透を図る。図書館を利用することで、市民は生涯を通じて学び、自らを向上させ、豊かで充実した人生を送ることができる。また、学んだことを地域活動や市民参画に活かすことができ、地域の活性化を図れる。
実施事業	案内表示や利用チラシの作成・配布やホームページ等を利用した広報
取組内容(活動指標)	常に利用者からの目線で案内表示等の改善を行うとともに、HP等による図書館からの情報発信に努めるとともに、図書館を利用していない人に向けてのアプローチとして、PRチラシの配布手段・方法等も検討する。
目 標(数値目標)	利用者向けの利用案内やサインを見直し、利便性を高めることによって、快適な図書館の利用を目指す。
達成効果(成果指標)	快適に過ごすことができ、資料等が探しやすい図書館、気軽に行ってみようと思える図書館として、利用者の増加を図ることにより、生涯を通じて市民の学びを支援し、精神的・知的な市民生活の充実を図ることができる。

実施事業	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働
取組内容(活動指標)	朗読をはじめ、おはなし会や人形劇などのボランティア団体や生涯学習課と連携しながら、障がい者サービスや児童奉仕の充実を図るとともに、湖南省国際協会とも連携を図り、南米語学教室などの多様な学習機会の提供に努める。
目 標(数値目標)	社会情勢の変化や地域課題に着目し、市民や市役所の関係部局や関係団体とも連携を図りながら、障がい者サービスや児童奉仕を充実させるとともに、市民との協働を深め、共に創る図書館を目指す。
達成効果(成果指標)	障がい者サービスや児童奉仕の充実とともに、ボランティアをはじめ、市民に活躍の場を提供し、地域の人々と共に図書館を創ることにより、図書館利用の市民生活への浸透を図ることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進
実施内容(進捗実績)	9月末現在、新規購入図書は4,600冊、7,253,479円を購入済でほぼ計画通り執行している。除籍済(リサイクル、できないものは廃棄)冊数は6,990冊で、除籍の年間目標を14,000冊としていることから予定通り進めている。
実施事業	案内表示や利用チラシの作成・配布やホームページ等を利用した広報
実施内容(進捗実績)	蔵書点検期間を中心に書架の見出しを大幅に作成し標示したことにより、利用者が本を探しやすくなった。防災訓練を機に避難誘導のサインを作成・貼付した。
実施事業	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働
実施内容(進捗実績)	昨年度、本のリサイクルの準備作業にお手伝いいただいた図書館サポーターの作業の範囲をさらに広げ、蔵書点検期間や月末図書整理日の棚の整理や書架の見出し作成など、サポーターの活用が広がった。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進	平成29年度の新規購入図書は9,518冊、16,638,642円、残額2,358円で計画通り執行した。除籍済(リサイクル、できないものは廃棄)冊数は10,108冊。除籍予定冊数を14,000冊としていたが、年度後半、新図書館システム導入の準備が入り、目標を達成できなかった。	A B C D
案内表示や利用チラシの作成・配布やホームページ等を利用した広報	常設している本のリサイクルコーナーにわかりやすい案内を掲示し、利用者の利便性を高めた。3月下旬の新図書館システムの導入でホームページもリニューアルし見やすくするとともに、スマホからのアクセスも容易になった。	A B C D
ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働	図書館サポーターの募集をさらに広げ、毎日お手伝いいただけるようになった。今年度から始めた読み聞かせ講座ではおはなし会ボランティアと協働で取組を行った。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	図書の除籍作業が年度分の目標に届かなかった。読み聞かせ講座は園を対象に、保育士、保護者向けに開催したが、申し込まれた園が少なかった。
改善の方向性	除籍作業は毎月の目標数を設定し計画的に進めていく。読み聞かせ講座の対象を検討する。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	山城 智恵子

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	ライフステージに応じた体と心を癒すスポーツ活動の継続	
実施事業	積極的なスポーツ情報の発信	継続
主な財源 (千円)	歳入	
	歳出	人件費
		200

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	スポーツ機会の充実と市民のスポーツへの関心を高めるために、継続的に、より効果的な媒体とタイミングでの情報発信を行えることが課題である。
改善の方向性	ホームページやfacebookの活用、「広報こなん」や湖南省のスポーツ情報誌「KONANスポーツ」での情報発信など、様々な媒体を効果的なタイミングで活用することを継続するとともに、効果的な発信手段について検討する。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	積極的なスポーツ情報の発信
取組内容(活動指標)	イベント案内や試合結果を積極的に情報発信するとともに、イベントに参加された方へアンケートを実施するなどして、効果的な情報発信について検討する。
目標(数値目標)	facebook等を活用した年80回以上のスポーツ情報の発信と、アンケート分析に基づく効果的な発信方法の検討。
達成効果(成果指標)	日頃スポーツに関心のない人、特に若い世代を中心にスポーツを親しむ意識の高まりが期待できる。また、次年度に向けてのより効果的な情報発信につながる事が期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	積極的なスポーツ情報の発信
実施内容(進捗実績)	現時点でfacebook等を活用したスポーツ情報の発信が予定を下回っている。今後、積極的な情報発信を進めていきたい。アンケートについては、既に2回実施済みである。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
積極的なスポーツ情報の発信	facebookでの発信回数23回、HPでのスポーツ結果の発信回数33回、合計56回と目標を下回ったが、今年度初めての事業に積極的に情報発信を試みて、少数ではあったがインターネットでの情報を獲得し参加してくれる方がいることがわかったのは有意義であった。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	スポーツ機会の充実と市民のスポーツへの関心を高めるために、継続的に、より効果的な媒体とタイミングでの情報発信を行えることが課題である。
改善の方向性	情報発信について既存の媒体(ホームページ、facebook、「広報こなん」、「KONANスポーツ」など)を効果的なタイミングで活用することを継続するとともに、アプリ活用など新規媒体の活用も行いながら、効果的な発信手段について引き続き検討する。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	青木 義文

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	いつでも、どこでも、だれでも楽しむことができるスポーツ環境の充実		
実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施		新規
主な財源 (千円)	歳入		
	歳出	人件費	300

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	より多くの市民にスポーツを楽しんでもらう一つの方法として、新たなスポーツイベントの機会の提供を検討する必要がある。
改善の方向性	誰もが気軽に参加することができるような、新たなスポーツイベントをスポーツ関係団体と連携・協働し実施する。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施
取組内容(活動指標)	湖南省スポーツフェスティバルの実施。
目標(数値目標)	誰もが気軽に参加でき、スポーツを体験できる市民スポーツフェスティバルをスポーツ関係団体と連携することで開催し、1,000人の参加を目標とする。
達成効果(成果指標)	誰もが気軽にスポーツに参画できる機会づくりを提供することができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施
実施内容(進捗実績)	市民スポーツフェスティバルを体育協会及びちよいスポクラブ(総合型地域スポーツクラブ)、スポーツ推進委員と連携することで2日間開催し、2日間で485人の一般参加があった。参加目標人数には達しなかったものの、機会づくりを提供することができた。10月には反省会を実施し、次年度に向けて改善事項等を検討する予定である。

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施	湖南省スポーツフェスティバルを開催し、2日間で485人の一般参加があった。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	誰もが気軽に参加しスポーツを体験できる機会である「スポーツフェスティバル」について市民の認知度を高め、市の恒例行事として市民に定着させることで、より多くの市民参加が得られるイベントとしていくことが望まれる。
改善の方向性	青少年層の参加者増に焦点を当て、内容を検討するとともに、学校との連携も図りつつ広報を強化する。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	青木 義文

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	自然、歴史、文化、地域福祉を活かしたスポーツの促進	
実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援	継続
主な財源 (千円)	歳入	
	歳出	人件費
		300

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	障がいのある人もない人もスポーツを楽しめるために、障がいのある人がスポーツを実施する機会の確保が引き続き必要である。
改善の方向性	障がいのある人が行うスポーツ活動に理解を深め、障がいのある人もない人も一緒にスポーツ活動ができる機会を確保し、周知および参加者の増加を図る。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援
取組内容(活動指標)	障がい者スポーツ団体との連携、支援
目標(数値目標)	湖南省体育協会、総合型地域スポーツクラブ「ちよいスポクラブ」、スポーツ推進委員などに働きかけ、年間4回以上、障がい者スポーツ大会の運営に参画する。
達成効果(成果指標)	各スポーツ団体が障がいのある人のスポーツ活動に理解を深めることにより、定期的なスポーツ機会の充実につなげることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援
実施内容(進捗実績)	5月「風船バレーボール大会」、9月「ポッチャ大会」、「余暇利用活動(スマイルポーリング、おじやびんご)」の3回の大会等の企画・運営に参画した。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
障がい者スポーツ団体との連携、支援	5月「風船バレーボール大会」、9月「ポッチャ大会」、「余暇利用活動(スマイルポーリング、おじやびんご)」、1月「スポーツ吹き矢」の年間4回の大会等に参画した。	A ⊙ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	障がいのある人もない人もスポーツを楽しむために、障がいのある人がスポーツを実施する機会の確保が引き続き必要である。
改善の方向性	障がいのある人が行うスポーツ活動に理解を深め、障がいのある人もない人も一緒にスポーツ活動ができる機会を関係団体と連携しながら確保し、周知および参加者の増加を図る。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	氏丸隆弘

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	3	地域の歴史文化の保存と活用

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	歴史文化遺産の保存と活用	
実施事業	文化財講座の実施	継続
主な財源 (千円)	歳入	
	歳出	人件費、報償費、旅費、消耗品費
		304

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	郷土の歴史や文化財について知る市民を増やすために講座の継続実施が必要である。歴史講座については、受講者が固定化されてきているのが課題である。
改善の方向性	歴史講座については、新規受講者層を開拓していくために、広報等を工夫していく。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	文化財講座の実施
取組内容(活動指標)	文化財調査によって得られた成果や湖南省の歴史を紹介する文化財講座を実施し、受講者数増に向けて広報の工夫などに取り組む。
目標(数値目標)	文化財講座については、昨年度と同様に6月から毎月1回のペースで実施し、受講者数の前年度比2.5%増を目指す。
達成効果(成果指標)	市民が郷土の歴史や文化財について知ることによって、地域の伝統や文化、文化財を大切にする意識が高まる。また、まちづくりに活用しようとする市民が増えることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	文化財講座の実施
実施内容(進捗実績)	初級編として文化財講座「湖南省の歴史講座」を6月から毎月1回のペースで4回開催した。10月に5回目を開催し、11月からは上級編として「学芸員が語る－湖南省の歴史講座－」を毎月1回のペースで開催する予定をしている。なお、初級編の受講者が延べで79名で、前年比14.9%(26名)増となっている。石部老人福祉センターと連携を強化して広報活動に取り組むとともに、受講者に次回の講座内容を事前に伝えるなど工夫をした。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
文化財講座の実施	6月から「湖南省の歴史講座」を5回、11月から「学芸員が語る－湖南省の歴史講座」を5回(応募者22名)、1月に「文化財講座」を1回開催し、のべ180名の受講者があった。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	郷土の歴史や文化財を知る市民を増やすためには講座の継続実施が必要である。受講者の固定化が課題である。
改善の方向性	こなん市民大学開校にあわせて、初心者も体系的に学べる講座を展開できるよう検討する。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	氏丸 隆弘

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	3	地域の歴史文化の保存と活用

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域文化の市内外への周知		
実施事業	文化財展の実施		継続
主な財源 (千円)	歳入	歴史民俗資料館入館料	375
	歳出	報償費、需用費、委託料、指定管理料	6,749

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民が地域の歴史や文化を知り、親しむ機会をより充実させることが必要である。
改善の方向性	過年度の取組を継続するとともに、市民が地域の歴史や文化を知り親しむ機会の充実に向けての検討を続ける。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	文化財展の実施
取組内容(活動指標)	歴史ある市の魅力を発信する手段のひとつとして、東海道石部宿歴史民俗資料館を中心に文化財展を開催し、文化財調査によって得られた成果や、館所蔵品の紹介等を行う。
目標(数値目標)	東海道石部宿歴史民俗資料館では、2か月に1回のペースで特集展示を開催する。
達成効果(成果指標)	市民が文化財について親しむ機会の充実を図ることで、文化財を大切にする意識が高まることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	文化財展の実施
実施内容(進捗実績)	2ヶ月に1回のペースで特集展示を開催した。10月以降も継続して実施していく予定をしている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
文化財展の実施	2ヶ月に1回のペースで、計6回の特集展示を実施した。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民が地域の歴史や文化を知り、親しむ機会をより充実させることが必要である。
改善の方向性	文化財展示の実施については、市民大学とタイアップするなどして取組を継続するとともに、市民が地域の歴史や文化を知り親しむ機会のさらなる充実についても検討していく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	氏丸隆弘

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	4	新たな市民文化が育つ環境の充実

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	市民との協働、市民への支援による文化の振興		
実施事業	市美術展の開催と支援 市文化祭の開催と支援	継続	
主な財源 (千円)	歳入	市美術展出品料	129
	歳出	人件費、委託料、補助金	2,430

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民との協働による、より良い美術展や文化祭を開催していくためには、美術展実行委員会委員の確保や文化協会とのより良い連携が必要である。また、美術展については、市民の関心をより高めることも必要である。また、文化祭については、より参加しやすくするために類似事業の同日開催を避ける必要がある。
改善の方向性	美術展実行委員については、新たな試みをするを前提として実行委員の募集を広報等で行うなどして委員の確保に努める。また、文化祭については文化協会との連携に努めるとともに、日程の周知を早めに行う。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市美術展の開催と支援
取組内容(活動指標)	市美術展実行委員会に委託し、美術展を開催する。
目標(数値目標)	市美術展では、展示会の認知度と必要性を、さらに高めるよう取り組む。出展数、展覧者数とも前年度比5%増加させる。
達成効果(成果指標)	美術展をより知ってもらい、出展者や出品数、展覧者を増やすことで、市民の創作意欲の向上につながるとともに、レベルの高い作品を鑑賞できる美術展となる。
実施事業	市文化祭の開催と支援
取組内容(活動指標)	市文化協会に委託し、文化祭を開催する。運営については、文化協会の会員と連携しながら、より市民に親しまれる文化祭となるよう、内容の改善を図る。
目標(数値目標)	市文化祭では、開催の認知度と必要性を、さらに高めるとともに、文化協会の認知度を高める。出展数、出演者数とも前年度比5%増加させる。
達成効果(成果指標)	毎年の課題の変化に合わせて運営内容の改善を図り充実につなげることで、結果として文化協会への会員加入増が期待できるとともに、文化芸術活動に親しむ市民が増加する。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市美術展の開催と支援
実施内容(進捗実績)	実行委員を募集して実行委員会を立ち上げて実行委員会を2回開催した。10月以降にポスター・募集要項・出品票を関係機関に配布する予定である。また、展示会の認知度と必要性を高めるために、今年度は新たに実行委員がワークショップ事業・パフォーマンス事業に取り組むとして実行委員会で協議している。
実施事業	市文化祭の開催と支援
実施内容(進捗実績)	文化協会に委託して会員以外の一般出演者・出品者にも運営に参画していただいている。今年度も文化協会が実施しているチャレンジ講座の受講生が出演の部に4団体出演する。出演団体数・出展団体数とも前年比微減である(出演者数・出展数については、11/4・5の実施後に確定)。開催の認知度と必要性、文化協会の認知度をさらに高めるために、今年度は展示場所の見直しを行い、内容の改善を図るとともに、出演団体・出品者にもポスターを配布して掲示していただく取り組みを予定している。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市美術展の開催と支援	美術展は実行委員会に委託して、平成30年2月17日から25日まで開催し、一般作品数で絵画の部71点、書の部44点、写真の部73点、工芸・立体の部33点の計221点の出品で、出品数は若干減少した。来場者数も1,216名で若干減少した。今年度から新たな取り組みとして、実行委員によるパフォーマンス事業を実施した。	A B C D
市文化祭の開催と支援	文化祭は文化協会に委託して、平成29年11月4日と5日に開催し、出演団体数42団体・個人2名、総出演者数465名で出演団体数及び総出演者数とも減少した。出展者129名、出展点数538点で、出展者数は減少したが、出展点数は増加した。また、体験コーナー参加者は茶道が昨年度より1日少なくなったので、141名と減少した。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民との協働による美術展や文化祭を開催していくためには、美術展実行委員会委員の確保や文化協会とのよりよい連携を図っていくことが必要である。また、広報や内容を含め市民の関心を高める工夫も引き続き必要である。
改善の方向性	美術展実行委員については実行委員8名の確保に努める。また、文化祭については文化協会とのさらなる連携に努める。実行委員会等で市民の関心を高められる方策を協議し実施に向けて検討するとともに広報に努める。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	福佐 雅子

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	1	家庭の教育力の向上

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	親育ての場の提供と人材の育成		
実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援		継続
主な財源 (千円)	歳入		
	歳出	人件費、報償費、事務消耗品費	108

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	親育ての場の提供として、親子プレイステーションおよび家庭教育講座を継続実施していくにあたり、子育てサポーター確保と育成の必要性が高まっている。
改善の方向性	子育てサポーターについては、養成講座を実施することで新規サポーターの育成を図る。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援
取組内容(活動指標)	子育てサポーター養成講座の実施。
目標(数値目標)	新規の子育てサポーターを3人以上増やす。
達成効果(成果指標)	親子プレイステーションの意義を理解し、親育ての活動に参画するサポーターが増えることで、地域に親育て・子育て支援の輪が広がり、家庭教育力の向上につながる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援
実施内容(進捗実績)	6月～7月にかけて、講義3回・親子プレイステーション見学2回のプログラムで子育てサポーター養成講座を実施。親子プレイステーションの成り立ち、おもちゃについて、参加者へのかかり方を学んだ。新規で12名、現役サポーターもスキルアップのために受講。新規受講者のうち5名を新たに子育てサポーターとして委嘱した。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援	6月～7月に、子育てサポーター養成講座を実施。修了者の中から7月に2名、8月に2名(1名は辞退)子育てサポーターを委嘱。親子プレイステーションで活動を開始している。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	今年度新規に委嘱したサポーターを含め、スキルアップを図っていく。
改善の方向性	家庭教育講座や子育てサポーター研修会等スキルアップの機会を継続して実施し、関連情報を提供していく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	福佐 雅子

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	1	家庭の教育力の向上

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	基本的な生活習慣を身につけるための取組	
実施事業	各団体と連携による取組の充実	継続
主な財源 (千円)	歳入	
	歳出	人件費
		28

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子どもが基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて保護者が認識を深めるために、家庭での教育だけでなく、子どもに関わる団体や大人が連携して取組を推進する必要がある。
改善の方向性	平成27年度に社会教育委員会議で作成された生活習慣パンフレットについて、より幅広く活用の呼びかけを行うなどして、有効な活用に努める。また、関係団体との連携に努める。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	基本的な生活習慣を身につけるための取組
取組内容(活動指標)	PTAなどの団体と連携し、子どもが基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、生活習慣パンフレットを活用するなどして保護者への啓発を継続する。
目標(数値目標)	保護者への啓発の結果、毎日朝食を食べる児童生徒の割合の前年度比増を目指す。
達成効果(成果指標)	保護者への啓発を通じて、基本的な生活習慣を身に付ける子どもが増えることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	基本的な生活習慣を身につけるための取組
実施内容(進捗実績)	5月19日に実施したPTA連絡協議会常任委員会でスマートフォンの使い方について学校教育課より湖南省の取組として「スマホ・携帯の電源を夜9時から朝6まで切る」運動についての説明と協力を依頼。青少年育成市民会議の役員会で生活習慣パンフレットを紹介したほか、要請により、学校へのパンフレット配布を行った(2校各200部)。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
基本的な生活習慣を身につけるための取組	青少年育成市民会議の役員会で生活習慣パンフレットを紹介したほか、要請により、学校へのパンフレット配布を行った(2校各200部)。また生活習慣パンフレットを2月のSOMPOボールゲームフェスタで180部、図書館での種まきプラン講演会と家庭教育講座で配布した。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子どもが基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、保護者をはじめとする大人が認識を深めるために、家庭での教育だけでなく、子どもに関わる団体や大人が連携して取組を推進する必要がある。
改善の方向性	平成27年度に社会教育委員会議で作成された生活習慣パンフレットについて、より幅広く活用を呼びかける。また関係団体との連携に努める。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	福佐 雅子・小林 直登

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	2	青少年の交流と活動の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	青少年の体験的活動機会の充実と社会参加の促進		
実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実		継続
	リーダー育成機会の充実		
主な財源 (千円)	歳入	交付金、基金繰入金	1,535
	歳出	人件費、旅費、通行料、委託料、補助金	5,595

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	青少年の体験的活動機会の充実させるためには、各種団体や地域が青少年の体験的活動機会の必要性を認識し、取り組むことが必要である。また、リーダー育成については、事業を実施するだけでなく、リーダーが育つ機会として活用することを意識的に行うことが必要である。
改善の方向性	各種団体や地域に対して青少年の体験的活動機会の充実に向けての働きかけを継続して行う。また、事業実施において最適なリーダーの募集方法の検討や、実行委員会でのリーダーの自主性を高める工夫を行う。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実
取組内容(活動指標)	各種青少年団体の育成支援と、青少年育成市民会議・学区民会議をはじめとする青少年に関わる各種団体へ情報提供や助言等の支援を通じて、体験活動機会の充実に努める。
目標(数値目標)	各種団体による体験活動機会回数が、前年度同数またはそれ以上となるようにする。
達成効果(成果指標)	青少年が、体験的活動に参加し地域住民と交流することを通じて、自立性と社会性を養うことに結びつく。また、将来の活気あふれるまちづくりにつながることが期待できる。
実施事業	リーダー育成機会の充実
取組内容(活動指標)	中学生の実行委員による「青少年育成大会」、新成人の実行委員による「成人式」、北栄町との子ども交流事業を実施する。
目標(数値目標)	「青少年育成大会」実行委員については8～10人程度、「成人式」実行委員については8人程度(各中学校区2人)、北栄町との子ども交流事業については25人程度、事業を行ううえで適切な人数を確保する。まずは、応募者の積極性を評価し、一つの事業をつくりあげていく過程において、各人がもつ力を発揮でき、自信と充実感、達成感に結びつくよう適切な後方支援を行い、実行委員などの主体的な取組により、目的に沿って事業を開催する。
達成効果(成果指標)	市の事業にリーダー的に参画する機会を与え、地域においてリーダーとしての体験を行うことで、リーダー的人材が育つ。家庭においては、体験自体が成功・失敗であったとしても、次のチャレンジへとつながり、将来のまちづくりを支える人材となることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実
実施内容(進捗実績)	各種青少年育成団体へは補助金交付や情報提供等を通じて支援をはかっている。青少年育成市民会議・学区民会議では定期的に役員会・理事会を開催し、体験活動の必要性や情報共有を図りつつ、各学区民会議が年間計画により体験活動を実施している。
実施事業	リーダー育成機会の充実
実施内容(進捗実績)	青少年育成大会(11/26開催予定)実行委員は12人が集まり、9月末までに4回の実行委員会を開催済みである。成人式(1/8開催予定)実行委員は7人が集まっており、募集を継続中。10月から実行委員会を開催する予定である。北栄町との子ども交流事業については、子ども16人、リーダー3人が集まり、事前研修(7月23日)・リーダー会議(8月10日)を経て、8月20日～21日に本研修で北栄町を訪問し、リーダーを中心に北栄町の子どもたちと交流活動を実施した。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
関係団体との連携等による体験活動機会の充実	各種青少年育成団体へは、補助金交付や情報提供等を通じて支援を行った。青少年育成市民会議・学区民会議では、定期的に役員会・理事会を開催し体験活動の必要性や情報共有を図りつつ、市民会議と8つの学区民会議では年間計32回の体験活動機会となる事業を実施した。平成28年度と比較して活動機会が8回増加した。	A (B) C D
リーダー育成機会の充実	「青少年育成大会」実行委員については、中学生12人が全10回の実行委員会を通して企画運営に関わった。11/26当日は参加者370人の前で司会進行および実行委員企画の発表を行った。実行委員アンケートでは、「人の前に立って発表する、貴重な良い経験ができてよかった」「達成感があった」等の感想が寄せられた。 「成人式」実行委員については、新成人15人が全7回の実行委員会を実施し企画運営に関わった。自主性を高めるために、会議の進行を実行委員に任せた。1/7当日は式典等参加者583人の前で司会進行および実行委員企画を行った。実行委員アンケートでは、「一生に一度しかない成人式の実行委員をすることができて、とても良い刺激になった。」等の意見が上がった。 「北栄町との子ども交流事業」については、児童・生徒16人・青年リーダー3人が交流大使として参加した。事前研修、リーダー会議、本研修(北栄町訪問)、事後研修を実施した。事後研修では、青少年育成大会における活動発表展示物を作成した。参加者へのアンケートでは、「リーダーとして参加して、スケジュール通りに動けて良かった。北栄町の子ども達と交流ができて良かった」等の意見が寄せられた。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	各種団体や地域が青少年の体験的活動機会の必要性を認識し、取り組むことが必要である。また、リーダー育成については、自主性を高める工夫を継続するとともに、事業がよりよい内容になるよう募集等にあたって配慮が必要なものもある。
改善の方向性	各種団体や地域に対して青少年の体験的活動機会の充実に向けての働きかけを継続して行う。また、成人式実行委員については、市内全域から集められるよう配慮する。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	稲塚 繁樹

1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	3	青少年健全育成活動の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	関係機関と連携した活動実施と、課題をもつ少年の対策・居場所づくり		
実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実		継続
主な財源 (千円)	歳入	国・県支出金	3,704
	歳出	人件費 賃金 報償費 旅費 需用費 役務費 使用料及び賃借料 等	12,058

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	対象少年の個別課題解決に繋がる質の高い支援を提供すると共に生活改善、就学、就労に向けた組織的取組を強化する必要がある。
改善の方向性	組織内の情報の共有とマンパワーを発揮できる支援プログラムを検討し実践する。 各機関との顔の見える関係づくりを進め、相互理解の上での具体的で総合的な支援につなぐようにする。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実
取組内容(活動指標)	個々の少年に対応した支援プログラムを作成し、センター内外の人的・物的資源を有効活用した組織的で実効性のある具体的支援に取り組む。 関係機関との定期的あるいは随時の連絡会議やケース検討会を重ね、個々の課題解決を図るための有効な支援に取り組む。
目標(数値目標)	少年自身に対応した支援プログラムの検討と支援により、対象少年への総合的な支援を80%を目標に充実させる。 立ち直り支援に関わる保護者・関係機関との協働を通して、少年の生活改善・就学・就労での支援効果を上げていく。
達成効果(成果指標)	重篤な問題行動へと発展するまでに、適切な支援ができ犯罪等への未然防止ができる。 就学・就労の早期実現と継続により、課題を抱える少年たちが社会的に自立し前向きに生きていく意欲と自信を持つことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実
実施内容(進捗実績)	無職対象少年7名・あすくる対象少年11名に対して就労・就学支援をすすめた。就労支援を行った6名の少年については、現在のところ、アルバイトを含め100%の就労率となっている。また、就学支援にかかる少年については、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、レポート提出の支援など、高等学校卒業を目標にした取り組みをすすめている。前期試験では、申請した8教科すべてパスした少年もおり着実に成果を上げている。しかしながら、年度後半に離転職や進路変更が心配されるため、生活改善支援や家庭支援にも力を入れ進めていきたい。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
生活改善、就学、就労支援の充実	無職少年7名のうち、9月以降に離転職した3名の無職支援少年も年度末になって就労した。さらに、運転免許の取得を目指し、来所して勉強に励む少年もおり、質の高い就労につなぐ支援を目指すことができた。また、あすくる支援少年11名のうち、5名が支援目標を達成したため支援終了とした。これは、支援少年の個々の特性に応じた支援プログラムを効果的に実施した成果といえる。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

<p>課 題</p>	<p>就労しても離転職を繰り返す少年の多くは、何らかの生活課題や発達課題をかかえる場合が多い。家庭での支援が望めない場合も多く、「時間を守る」「食事をする」「挨拶をする」といった生活習慣の確立のための支援も重要となっている。そのためには、少年センターを核とする総合的な支援体制の構築が望まれる。少年が安定して就労できるよう、学校、発達支援室、職業安定所、企業等と連携して就労支援を展開していくことや、就学支援において高校を卒業することを目標に、単位取得のため在籍校への訪問や担任との情報交換をとって有効な支援を続けていかなくてはならない。</p>
<p>改善の方向性</p>	<p>センターの相談件数のうち就労・仕事への相談が最も多く、次いで就学・学業にかかることである。これらの実態から、就労支援・就学支援を柱とした支援プログラムをより有効で確なものにしなければならない。そのために心理臨床カウンセラーをはじめとする専門的な知識を活用した支援としていく。さらに、必要に応じてアウトリーチ型支援を行ったり、関係機関と就労や就学のための連携を深めるなどして、質の高い支援を提供していく。また、「家庭学習支援システム」の構築への取り組みを進めることを通じて予防にも努める。</p>

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	城 敬

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「鍛える学校文化」の醸成		
実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	全国学力・学習状況調査において全国との平均値に迫りつつあるが越えてはいない。
改善の方向性	子どもの夢と志を育てるために特に必要となる基礎基本の部分(A問題)について改善する。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践
取組内容(活動指標)	「我が校は〇〇で△△の力を学力保障する」という取組課題を各校が設定する。
目標(数値目標)	「知識」の定着状況を問うA問題(*B問題はその「活用」)については全国平均に近づける。
達成効果(成果指標)	A問題についての結果が上昇すると、授業の中の「ふりかえり」を書く力も向上する。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践
実施内容(進捗実績)	H29年度全国学・学調査の結果を分析。A問題については、各校の取組によって、小中学校とも、この数年間で全国平均との差が縮小してきている。一方、ここ数年継続して課題がみられる分野もある。これをふまえ、児童生徒の基礎学力の向上を目指す取組を中学校区ごとに推進。また、校長会・教頭会においても、課題点や共通実践の方向性について協議を行った。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学習の基礎力を重視した各学校における共通実践	調査結果の状況は、ここ数年全国平均との差が縮まりつつある。B問題では成果がみられているが、A問題で基礎基本の定着に課題がみられた。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	基礎学力の定着に向けた取組の継続
改善の方向性	授業スタイルの改善において、主体的対話的な深い学びの実践と併せ、基礎学力の定着をはかる。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	城 敬

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「楽しくて力のつく湖南省教育」の実現		
実施事業	「授業の湖南省スタイル」による授業実践	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	報償費(謝礼)	324

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	「授業の湖南省スタイル」の周知は終了したが、日々の授業で十分、意識できていない教員もいる。
改善の方向性	自尊感情の向上という成果を示し、授業改善の必要性について学校へ提示する。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「授業の湖南省スタイル」による授業実践
取組内容(活動指標)	「楽しくて力のつく湖南省教育」の実現に向け、一人ひとりの教職員が「学力保障」が湖南省の喫緊の課題であることを認識し、3つのプログラムである、授業改善(授業の湖南省スタイルの定着)、読書活動の推進、家庭学習の充実について、中学校区が連携し、その推進を図る。
目標(数値目標)	全教員が「授業の湖南省スタイル」で授業をする。
達成効果(成果指標)	教員の授業力を向上させ、授業改善を進めることにより、子どもたちの自尊感情が向上することによって、主体的に学ぼうとする意欲が高まり学力向上が実現する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「授業の湖南省スタイル」による授業実践
実施内容(進捗実績)	市内全学校において、授業の湖南省スタイルによる授業改善を推進。また、ワーキンググループ教員による先進的な授業実践の公開・研究を実施し、取組の広がりと深まりに努めている。8月に、ワーキンググループ授業研究会を開催。今後実施する研究授業について、教科ごとに協議を行った。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「授業の湖南省スタイル」による授業実践	市内全学校において、授業の湖南省スタイルによる授業実践を推進した。加えて、ワーキンググループ教員による先進的な授業の公開・研究を実施し、実践内容の深まりを市内の学校に広げることができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学力向上委員会をはじめとする組織的な事業の推進。各学校において定着しつつある「授業の湖南省スタイル」の実践を深める。
改善の方向性	学力向上委員会をはじめとする組織的な事業の推進をはかり、「授業の湖南省スタイル」の深化を図る。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	藤本 聡子

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	語彙の量と言語の質を高める取組		
実施事業	「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」「D1だじゃれグランプリ」の取組	継続	
主な財源 (千円)	歳入	寄付金	50
	歳出	報償費(謝礼、副賞)、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費	273

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	全ての学校で「ことばの宝石箱」を活用はしているが、学校によって取組推進の状況には差があるため、より積極的に活用できるようにする必要がある。
改善の方向性	国語主任会などで「ことばの宝石箱」の活用について交流する時間をとり、各校の意識を高めていく。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」「D1だじゃれグランプリ」の取組
取組内容(活動指標)	音読集「ことばの宝石箱」(平成28年改訂)を、市内小学校3年生に配布・活用。また、第10回目の事業で詩・五・七・五部門において、作品応募、審査、表彰を行う。「D1だじゃれグランプリ」において、市内小学校から代表者を募集・実施する。
目 標(数値目標)	各校で、「ことばの宝石箱」を使って暗唱・音読・群読などを行い、多くの作品に出会う。また「湖南省の小さな詩人たち事業」では、日頃の学習を生かし、詩や五・七・五部門に応募することで表現力を鍛える。「D1だじゃれグランプリ」においては、語彙の拡充を図る。
達成効果(成果指標)	この事業を通して、市内の児童生徒に豊かな言語力や、表現力を養うことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」「D1だじゃれグランプリ」の取組
実施内容(進捗実績)	「ことばの宝石箱」を活用し、暗誦や音読などに取り組む学校が増えてきている。「湖南省の小さな詩人たち事業」では、現在各校で作品づくりに取り組んでいるところである。「D1だじゃれグランプリ」運営委員会を立ち上げ、大会ルール等を改訂し、12月27日の大会に向けて準備を進めている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」「D1だじゃれグランプリ」の取組	「ことばの宝石箱」を活用し、暗誦や音読などに取り組むことができた。「小さな詩人たち事業」に全小中学校の児童生徒が意欲的に取組ことができた。10周年を記念し、過去の表彰者も招いて石部文化ホールで表彰式を実施することで、児童生徒の意欲をさらに増進させることができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	全ての学校で「ことばの宝石箱」を活用しているが、学校によって取組推進の状況に差があるため、より積極的に活用できるよう工夫していく必要がある。
改善の方向性	国語主任会などで「ことばの宝石箱」の活用について交流する時間をとり、各校の意識を高めていく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	細田 佳予子

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	2	仲間と共に切り拓く力の育成・特別支援教育の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	インクルーシブ教育を実現するための特別支援教育体制整備		
実施事業	専門家チーム会議による事例検討 巡回相談の実施・担当者会議の活用 特別支援教育コーディネーター連絡会の実施 個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ きめ細やかな湖南省就学支援委員会の実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	補助金	3,888
	歳出	報償費(謝礼)	1,022

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	インクルーシブ教育システムや特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの必要性が周知できたが、児童生徒の理解を合理的配慮の決定に活かすことなど、取組の充実はまだ十分ではない。
改善の方向性	アセスメントに基づいた支援の充実を図り、学齢期前後と合わせて切れ目ない支援を行うための体制整備を行う。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	専門家チーム会議による事例検討
取組内容(活動指標)	専門家による事例検討会議を定期開催する。医療との連携が必要なケースについて事例検討し、各機関の専門性の維持・向上に資するとともに、緊急を要するケースにも迅速に対応できるようにする。
目標(数値目標)	医療に関わる事例検討や情報交換により、緊急を要するケースや他機関との連携が不可欠なケースの改善を目指す。各機関の専門性の維持・向上のため、アセスメントについての研修を深めて各機関の専門性の向上を図るとともに、インクルーシブ教育システム構築について検証するなど、市の特別支援教育全体の推進を図る。
達成効果(成果指標)	年間6回の専門家チーム会議、巡回相談担当者会議への医師の参加により、医療に関わる事例や、環境要因と障がい特性との相互作用に関わる事例などについても検討し、支援の方向性や具体について明らかにする。またインクルーシブ教育の視点から、個別の指導計画の作成や評価についてのスーパーバイズを行い、保護者本人参画で作成する指導計画の充実を図る。
実施事業	巡回相談の実施・担当者会議の活用
取組内容(活動指標)	各校園における参観、諸検査の実施、校園担当者や保護者との面談を通して、個別指導計画の作成、活用、評価についてのサポートや、合理的配慮の検討、指導改善、就学について助言を行う。
目標(数値目標)	参観、諸検査実施、保護者や学校担当者などとの面談を通して、児童生徒のアセスメント向上や個別指導計画への反映、合理的配慮の決定や授業改善を図る。
達成効果(成果指標)	巡回相談を経て、ことばの教室通級、ふれあい教育相談室通級、就学支援などへつなぐ視点にたち、個別の指導計画の作成に対する保護者同意を高める。 巡回相談担当者会議への隔月での医師参加により、医療的介入が必要なケースへの迅速な対応を図る。

実施事業	特別支援教育コーディネーター連絡会の実施
取組内容(活動指標)	市の特別支援教育の推進に向けて、具体的な取組を進めるための共通理解の場とする。情報交換の機会や関係機関からの研修の機会も持てるよう計画的に運営する。
目 標(数値目標)	中学校区での情報交換を重視し、一体となって取り組む体制を作る。
達成効果(成果指標)	共通理解する内容、機関からの研修、中学校区での情報交換を設け、推進上の課題を検討する。同僚性を活かして事例から学ぶ機会を設けることで、コーディネーターの力量を高め、取組の一体化を図る。
実施事業	個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ
取組内容(活動指標)	園と小学校、小学校と中学校といった校種間での引継ぎは、個別の事例、学校園体制の双方について引継ぎを行う。中学卒業時には個別の支援移行計画で進路先へ引き継ぐ。 保護者への指導計画提供により、課題に対して役割分担して取り組むなど学校園と家庭が協働して子どもの発達支援を行う。
目 標(数値目標)	個別の指導計画を確実に引き継ぐことで、進級や進学後の支援に円滑に移行できるようにする。保護者(本人)の教育的ニーズを反映して作成し、懇談の際に説明しながら提供するなど、慎重かつ滞りなく提供する。
達成効果(成果指標)	保護者を交えた懇談での活用状況を把握する。活用できた例や引き継ぎが活きた例などを、研修の機会に紹介することで、保護者との連携体制の強化を図ると共に、教育効果を上げる。
実施事業	きめ細やかな湖南市就学支援委員会の実施
取組内容(活動指標)	関係機関からの情報、園での具体的な支援情報を基に、就学相談を進める。その際、個の特性に応じた支援のあり方について、専門チーム会議、巡回相談、校園内委員会の連携をベースに、保護者との話し合いを持ちながら総合的な見地から判断する。
目 標(数値目標)	個々の児童生徒の教育的ニーズに基づく支援や指導について示すとともに、保護者への情報提供を行い、最もニーズに応じることのできる学びの場について、保護者と建設的対話により検討する。
達成効果(成果指標)	児童生徒のアセスメントを共有し、就学先などについて情報提供をきめ細やかにを行い保護者との合意形成を継続的に図る。 就学後も継続して状況を把握し、必要に応じて就学について検討し、最も望ましい学びの場を活用して指導が受けられるようにする。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	専門家チーム会議による事例検討
実施内容(進捗実績)	医療的な対応が必要と考えられるケースを中心として、事例を持ち寄り検討を行っている。医療へのつながりがスムーズに行えるような事前の検討となっている。インクルーシブ教育モデルスクール事業への検証は後期を中心として行う予定。2ヶ月に1回実施。
実施事業	巡回相談の実施・担当者会議の活用
実施内容(進捗実績)	校内支援委員会の検討を経て巡回相談につながるケース、担当から直接連絡があるケースがあり、活用について再確認を行った。月1回会議を開催。情報共有をすることで密な連携が図れている。
実施事業	特別支援教育コーディネーター連絡会の実施
実施内容(進捗実績)	保幼小中を1回、小中を2回開催し、個別の指導計画(合理的配慮)について、就学支援についてなど、市内の特別支援教育推進に関わる内容を取り上げ全体で確認をし、中学校区での情報交換の場も確保してきた。福祉的な視点の研修会にも参加し、市内全体のレベルアップを図りたい。
実施事業	個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ
実施内容(進捗実績)	特別支援学級の個別の指導計画の様式、提出時期を変更。個別の教育支援計画の作成にも着手する。校園長会、コーディネーター会議などで個別の指導計画の作成について再確認を行った。書面での提供に当たり、保護者との情報交換の重要性や「共に作成する」という位置づけに留意することについて周知を図った。
実施事業	きめ細やかな湖南市就学支援委員会の実施
実施内容(進捗実績)	就学先決定に向けて計画的に相談を繰り返してきた。取組の中に、就学予定先の見学・体験を位置づけたり、進路選択などニーズに応じた説明をしたりしながら、保護者との合意形成を図っている。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
専門家チーム会議による事例検討	医療的な対応が必要と考えられるケースを中心として、事例を持ち寄り検討を行った。医療へのつながりがスムーズで、医師のアドバイスを指導に活かすことができている。2ヶ月に1回実施。	A B C D
巡回相談の実施・担当者会議の活用	校内支援委員会の検討を経て巡回相談につながるケース、担当から直接連絡があるケースなど、対応について検討を行い実行した。月1回会議を開催。情報共有をすることで密な連携が図れている。	A B C D
特別支援教育コーディネーター連絡会の実施	計画通り幼小中2回、小中2回実施。保幼小中が集まる会では情報交換の時間がとても有効である。個別の指導計画(合理的配慮)について、就学支援についてなど、市内の特別支援教育推進に関わる内容を取り上げ全体で確認をし、中学校区での情報交換の場も確保してきた。	A B C D
個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ	特別支援学級の個別の指導計画の様式、提出時期を変更。個別の教育支援計画の作成にも着手する。校園長会、コーディネーター会議などで個別の指導計画の作成について再確認を行った。実際、記載内容についての認識が統一できておらず、内容に差が出ている。	A B C D
きめ細やかな湖南省就学支援委員会の実施	就学先決定に向けて計画的に相談を繰り返してきた。取組の中に、就学予定先の見学・体験を位置づけたり、進路選択などニーズに応じた説明をしたりしながら、保護者との合意形成を図った。ほぼ、希望や答申にあった進路を決定できた。	A B C D

7. 平成29年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	個別の教育支援計画に記載する内容の確認。放課後等デイサービスなど児童の利用する福祉サービスなどの知識を広める。
改善の方向性	理解送信を図るための情報を伝えたり、共通理解を図ったりする研修会を実施。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	細田 佳予子

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	2	仲間と共に切り拓く力の育成・特別支援教育の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	湖南省ことばの教室の運営		
実施事業	湖南省ことばの教室の充実		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	賃金、報償費(謝礼)、旅費、消耗品費、燃料費、備品購入費	12,204

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進、という理念に則り、個別の指導計画を軸とした根拠ある合理的配慮の提供と、個に応じた多様な学びの場の充実に継続して取り組む必要がある。
改善の方向性	特別支援教育の視点に立った授業に市内一体となって取り組むこと、特別支援学級での指導の充実、アセスメントに基づいた合理的配慮の決定と実施を行う。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	湖南省ことばの教室の充実
取組内容(活動指標)	通級生のアセスメントを立て、個別の指導に活かすとともに、集団生活や学習上の課題などに活かせる支援のあり方について、校園や保護者に情報提供を行う。市内の保育・教育関係者を対象として研修会を開催したり、「湖南省読み書きチェック」によるスクリーニングで、支援を必要とする児童の早期発見を図る。 市内4中学校区のことばの教室が核となり、福祉部との連携も図りながらアセスメントの充実につながる巡回相談の活用や効果的な合理的配慮についての助言を行う。
目標(数値目標)	コミュニケーションの課題、学習上の課題などニーズのある児童生徒に、校園や保護者と連携した指導を行い、教育的ニーズに応える。 アセスメント情報を学校、園が活用できるように提供し、合理的配慮決定と内容の充実について助言し、合理的配慮が提供できるようにする。
達成効果(成果指標)	年間2回の園訪問、学校訪問による情報交換の他、湖南省ITネットワークを活用した日常の連携により、個別の支援、指導がアセスメントに基づいて行われる。 市内校園の個別の指導計画に、関係機関からのアセスメント情報が明記され、合理的配慮提供の根拠となる。また、個別の指導計画を保護者に年1回提供し、子どもの発達について支援者と保護者が協働して支援する。これらにより、支援を受ける主体者が力をつける。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	湖南省ことばの教室の充実
実施内容(進捗実績)	6月に市内全校園を訪問。ことばの教室で作成した通級生の個別の指導計画を提供し情報交換を行った。指導員全員で支援検討会議を定期的に行い、アセスメント支援方法について検討した。(4回)長年続けている読み書きチェックの考察を基に教材を作成。各小学校に配布した。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
湖南省ことばの教室の充実	6、11月に市内全校園を訪問。ことばの教室で作成した通級生の個別の指導計画を提供し情報交換を行った。指導員全員で支援検討会議を定期的に行い、アセスメント支援方法について検討した。(4回)長年続けている読み書きチェックの考察を基に教材を作成。各小学校に配布した。県の研修会でその成果を報告した。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	通級生の数が年々増加している為、4教室体制を確立する必要がある。
改善の方向性	H30石部小に通級加配がついたので、人的環境がかなり改善された。各中学校区ごとの巡回相談体制や通級指導体制を整えていく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊晋
担当者	長谷川洋介

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	3	多文化共生教育の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	外国人児童生徒への学習支援		
実施事業	校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	補助金	1,894
	歳出	報償費(謝礼)、保険料	2,620

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市費の通訳・母語支援員等の配置に限りがあり、学校・保護者・児童生徒の要望に応えられない場面があった。 (突発的な生徒指導事案時の通訳・外国製気児童生徒転入時の対応等)
改善の方向性	市費の通訳・母語支援員配置校が連携をとり、必要時に派遣できる体制を整える。また、市役所勤務通訳者・国際協会の協力も得ながら支援を行う。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施
取組内容(活動指標)	日本語取得が不十分な外国籍児童生徒に対して、通訳を配置し日本語指導を行う。
目標(数値目標)	特別の教育課程の定着を図る。また、4人の母語支援員を配置する。
達成効果(成果指標)	日本語教室に通級して日本語や日本の文化を学ぶことにより、日本の学校生活に適應できるようにする。また、通級児童生徒の交流会に参加して、より良い人間関係を築くことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施
実施内容(進捗実績)	各校、日本語教室教室での学習を中心に、個々に応じた特別の教育課程に沿った学習が進められている。該当校への母語支援員は計画通り配置ができているが、緊急の生徒指導事案発生時や進路や入級指導に関する重要な保護者との懇談における通訳については、「人権擁護課の通訳」に依頼している状況である。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施	市費の通訳・母語支援員を必要校に配置し、おおむねきめ細かな支援が実施できた。また、外国籍児童生徒の交流会を開催し親交を深めることができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市費の通訳・母語支援員等の配置に限りがあり、学校・保護者・児童生徒の要望に応えられない場面があった。(突発的な生徒指導事案時の通訳・外国製気児童生徒転入時の対応等)
改善の方向性	市費の通訳・母語支援員配置校が連携をとり、必要時に派遣できる体制を整える。また、市役所勤務通訳者・国際協会の協力も得ながら支援を行う。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	島田 亜季子

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	3	多文化共生教育の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	多文化共生の推進		
実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実		継続
主な財源 (千円)	歳入	交付金	0
	歳出	賃金、消耗品費、医療材料費、通信運搬費、機械等借上料、教材教具費	6,697

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	通級修了後の円滑な転入のために、さくら教室と在籍校間との連携が必要である。また、今年度から外国籍児童生徒が多くいる水戸小学校に移転しスタートしたので、定員管理について注意を払う必要がある。
改善の方向性	各校の日本語教室窓口担当との情報共有を推進する。また、通級希望時には必ず現人数を確認すること。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実
取組内容(活動指標)	日本語や文化(学校文化を含む)、習慣などを指導する。また、在籍校と連携しながら個々の状況に応じた対応を進める。
目標(数値目標)	個々の日本語能力、学校適応力の向上を図る。
達成効果(成果指標)	個々の外国人児童生徒の日本語能力が向上し、学校適応力が増すことにより、通級修了後の在籍校での生活を充実したものにすることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実
実施内容(進捗実績)	通級希望時には必ず現人数の確認を徹底できている。入国すぐの児童生徒が多く、定員20人に達しそうな状況が頻発しているため、3か月での通級修了を目指したいが、3か月では本来校に戻る日本語能力に達していない児童生徒がいる現状である。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
日本語初期指導教室「さくら教室」の充実	通級希望時には必ず現人数の確認、受入れの可否の確認を徹底できている。2学期末、3学期末には本来校に戻る日本語能力を習得した児童生徒数が増え、定員に余裕ができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	通級修了後の円滑な転入のために、さくら教室と在籍校間との連携が必要である。また引き続き定員管理について注意を払いながら、通級が必要な児童生徒を受け入れる。
改善の方向性	各校の日本語教室窓口担当との情報共有を更に推進する。また、通級希望時には必ず現人数を確認する。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊晋
担当者	長谷川洋介

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	1	人間量を身につけた子どもの育成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	さまざまな今日的教育課題への対応		
実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進 再登校支援の充実		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	報酬(委員報酬)	36

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	いじめをなくすための、『児童生徒が自ら考えた主体的な取組』が必要であり不十分なところがある。
改善の方向性	児童会生徒会活動の充実を校長会等で依頼し、より活発な活動を促す。また、『湖南省いじめをなくそうサミット』の内容についても、現状にあった内容を検討し広がりのあるものにしていきたい。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進
取組内容(活動指標)	「第7回湖南省いじめをなくそうサミット」を開催し、児童生徒がいじめを無くす取組に、主体的に関わっていかうとする意欲を喚起する。 具体的ないじめ事案が発生した時には、基本方針に即して素早く対応する。
目標(数値目標)	「第7回湖南省いじめをなくそうサミット」に参加した児童生徒が、学校の現状を踏まえて、いじめを無くすためのアピール文を考えるとともに、サミットの様子や作成したアピール文を始業式や全校集会、人権集会等の機会に発表し浸透を図る。
達成効果(成果指標)	各校のアンケートで、「いじめはいけない」と思う児童生徒を100%にする。
実施事業	再登校支援の充実
取組内容(活動指標)	学校が、ふれあい教育相談室やことばの教室、さらに発達支援室等と連携し、児童生徒にきめ細かなアプローチを行いながら、再登校支援ができるようにする。
目標(数値目標)	学校と関係機関との連携強化により、学校復帰(別室登校や教室復帰)を目指す。
達成効果(成果指標)	学校とふれあい教育相談室、さらに関係機関とが連携することにより、児童生徒が段階的に学校生活に復帰できるようにする。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進
実施内容(進捗実績)	第7回湖南省いじめをなくそうサミットには104名の方々が参加し、熱心に議論し考えを深め合うことができた。(アンケートの結果【66名回収】、50名が大変満足、16名が満足とすべて肯定的な回答であった。)また、各校アピール文を作成し、始業式等で全校生徒に発表することができた。11/26(日)に開催される『湖南省青少年育成大会』において、サミット後の各校の実践(人権学習・児童会生徒会の取組など)について発表を行う予定である。
実施事業	
実施内容(進捗実績)	学校とふれあい教育相談室との連携により、放課後登校など徐々に学校に復帰できるようになってきている。発達障害等の二次的的症状や家庭的な要因の場合も多く、その場合はことばの教室や家庭児童相談室との連携を密にして対応方法を考えていく。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進	湖南省いじめ問題対策連絡協議会等で、基本方針の確認・修正を行い各校へ周知を行った。また、基本方針の中で各校の取組を紹介し、更なる充実をお願いした。	A (B) C D
再登校支援の充実	学校とふれあい教育相談室の連携が円滑にされており、初期の段階での対応がすすんでいる。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	いじめをなくすための、『児童生徒が自ら考えた主体的な取組』が必要であるが、現状では不十分などところがある。
改善の方向性	児童会生徒会活動の充実を校長会等で依頼し、より活発な活動を促す。また、『湖南省いじめをなくそうサミット』の内容についても、現状にあった内容を検討し広がりのあるものにしていきたい。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	藤本 聡子

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	2	道徳力を身につけた子どもの育成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	道徳教育の推進		
実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成	継続	
主な財源 (千円)	歳入	委託金	2,000
	歳出	報償費(謝礼)、旅費、消耗品費、印刷製本費	2,000

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	文科指定事業推進校については授業改善をすることができているが、その他の学校についても授業改善がなされるようにする必要がある。
改善の方向性	推進校の取り組みを湖南省教育だよりなどで市内学校に伝えていったり、実際に授業を参観できる機会を提供するなどして、授業改善のポイントなどが具体的に市内教員に分かるようにしていく。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成
取組内容(活動指標)	文科省指定事業「平成29年度道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を菩提寺小学校、日枝中学校を核として進める。推進校での実践の成果の普及を、市内各校に広げる。
目標(数値目標)	菩提寺小学校・日枝中学校の研究発表会では、各校の取組の成果を市内に普及する機会とする。推進校を中心に「郷土資料集」を活用した授業を行い、指導案集を蓄積する。市の「こころの教育推進協議会」を機能させ、家庭・地域を巻き込んだ取組を展開することで、自尊感情の向上を目指す。(自尊感情については、全国学力・学習状況調査質問紙を活用し、4月→1月の変化を検証する)
達成効果(成果指標)	家庭・地域を巻き込んだ取組を展開することで、子どもたちの自尊感情や規範意識等の向上につながる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成
実施内容(進捗実績)	市の「こころの教育推進協議会」を開催し、地域代表者や学識経験者の意見も取り入れながら、道徳教育を推進している。指導主事と研究員が推進校の授業を定期的に参観し「考える道徳」への転換に必要なことを助言している。このことで、道徳の授業改善が進んでいる。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成	文科省指定事業推進校において「授業の湖南省スタイル」に即した「考える道徳」へ授業を改善することができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	文科省指定事業推進校については授業改善をすることができているが、その他の全ての学校についても授業改善がなされるようにする必要がある。
改善の方向性	推進校の取組を湖南市教育だよりなどで市内学校に伝えたり、実際に授業を参観できる機会を提供するなどして、授業改善のポイントなどが具体的に市内教員に分かるようにしていく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課・図書館・学校教育課
所管長	吉永恵子(生涯学習課) 今井 操(図書館) 川邊 晋(学校教育課)
担当者	福佐 雅子(生涯学習課) 播口 嘉紀(図書館) 藤本 聡子(学校教育課)

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	4	読書活動の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「湖南省読書の種まきプラン」に基づく読書活動の推進	
実施事業	(生涯学習課) 地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進 (図書館) 子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進 保護者に対する啓発推進 (学校教育課) 学校図書館の機能を活用した授業の改善	継続
主な財源 (千円)	歳入	(生涯学習課)なし (図書館)なし (学校教育課)なし 0 0 0
	歳出	(生涯学習課)人件費 (図書館)報償費 (学校教育課) 報償費(謝礼)、消耗品費、修繕料、保険料、委託料、電算借上料、備品購入費 (学 218 8,985

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	(生涯学習課) 「湖南省読書の魅力種まきプラン」をより実効性のあるものにしていくために、関係各課がそれぞれの役割を果たし連携して取り組むことが必要である。計画の中間年にあたることから、関係各課が推進状況等を把握し推進方法等の見直しをすることも必要である。 (図書館) 児童書の充実やおはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場を提供し、子どもの読書活動を推進する。そのためには、子どもと子どもの本について学び続けることが必要であるため、司書のスキルアップを図る。 (学校教育課) 市内小・中学校において「学校図書標準」の未達成の学校がある。これは、情報が古い図書資料は順次廃棄しているためであるが、情報の新しい図書を充実させながら蔵書数を増やし、「学校図書標準」を達成率をあげていく必要がある。また、市内全小・中学校で「学校図書館の機能を活用した授業」一人一実践を進めることができているが、学校によって取組に差があるため、どの学校も取組推進ができるようにしていく必要がある。
改善の方向性	(生涯学習課) 過年度に実施した関係各課の取組状況の調査等をもとに、推進状況を把握するとともに、関係者会議を開催するなどして今後の推進方法等の検討を進める。 (図書館) 定期的なおはなし会の開催や移動図書館の巡回等で、子どもと本との出会いの場を提供するとともに、乳幼児健診でのブックスタート、保育園・幼稚園・子ども園の園児を持つ保護者と先生向けに、子どものころから本に親しむために周囲の大人が関わることの大切さを伝えるための出前講座を開催するなど、身近な大人に読み聞かせの大切さを理解してもらう活動を行う。 (学校教育課) 市内小・中学校に予算を計画的に配当し、図書の購入を進める。継続して「学校図書館の機能を活用した授業」一人一実践を進め、授業実践を収集し授業づくりのヒントとする。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進
取組内容(活動指標)	各関係課が連携し役割を果たせるよう、推進体制を調整する仕組みを検討するとともに、各課の取組や第2次子ども読書推進計画における指標の達成状況等を把握するなどして、計画の評価・見直し・改善を含めた進行管理の適切な方法を検討する。また、読書活動推進の啓発や広報の充実に努める。
目 標(数値目標)	平成30年度の指標目標達成に向けて、関係各課の推進体制を調整する仕組みや、推進項目についての取組を把握するなど進行管理の方法を検討するとともに、「子ども読書の日」や読書週間等における読書活動推進の啓発を行う。(平成30年度指標数値例：・学校図書館における1校あたりの年間新規購入冊数＝小学校350冊、中学校450冊、・学校図書館の年間貸出冊数＝小学校20冊、中学校3.5冊、・1校あたりの学校司書の配置時間＝525時間、・学校図書館図書流通システムの利用件数、冊数＝195件、12,400冊、・児童図書の市立図書館での年間貸出冊数(12歳以下の子ども1人あたり)＝21.5冊)
達成効果(成果指標)	関係各課が連携し、それぞれの役割を果たし、また読書推進の啓発を行うとともに市民の協力を得ることで、効果的な読書活動の推進を図ることができる。また、読書活動によって、子どもの想像力・記憶力・思考力を育てることができるとともに、豊かな感性・人間性を育み主体的に生きる人間として育つために必要な判断力を培うことが期待できる。
実施事業	子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進
取組内容(活動指標)	関係部局とも連携しながら、子どもを持つ保護者を中心に、子どもと本を繋ぐ大人を対象として、子どもへの読み聞かせの意義についての啓発の工夫を行う。園児をもつ保護者と先生向けに読書啓発の出前講座を開催する。 定期的なおはなし会を継続する。 移動図書館車の利用について、多くの子どもが利用できるように工夫する。
目 標(数値目標)	おはなし会参加人数を平成28年度(1,293人)比で増加させる。
達成効果(成果指標)	子どもへの読み聞かせの大切さを、保護者をはじめとする大人に伝えることにより理解を高める。おはなし会で実際に読み聞かせの機会に触れることにより、乳幼児期からの読書の推進に繋がる。 乳幼児期からの保護者による読み聞かせが子どもに与える楽しさや安らぎは子どもの自信につながる。継続的に読書に親しむことによって、自立して生きる力と人生の豊かさを得ることができる。
実施事業	学校図書館の機能を活用した授業の改善
取組内容(活動指標)	平成26年度に改訂した「新学校図書館図書整備5ヶ年計画」の4年目にあたる。「学校図書標準」の未達成の学校について予算を計画的に配当し、購入を進める。また、滋賀県学校図書館活用支援事業に参加し(平成27年度～29年度まで各1校)、図書館整備を進める。 学校司書の資質向上を図るために、研修会として有効であった「定例会」の内容を深め、「学校図書館機能を有効活用した授業」がより有効に児童生徒に働くようにする。
目 標(数値目標)	「学校図書標準」の数値(達成率30.7%)を、達成率46.1%に改善できるよう、予算・計画に基づき購入を進める。図書館整備については、改善を図った市内の学校の実践をさらに広め、読書センター・学習情報センターとしての機能を充実させる。 「湖南市図書流通システムを活用した授業」および「学校図書館の機能を活用した授業」において、授業者・学校司書が連携した授業を通して、学校司書の専門的な知識を教職員だけでなく授業の中で、児童生徒への支援を充実させる。
達成効果(成果指標)	「学校図書標準」を達成することで、さらに学校図書館を活用した授業の充実を図ることができる。学校図書館を利用することで、児童生徒の情報活用能力の向上が期待できる。 学校司書と授業者が連携した「学校図書館の機能を活用した授業」において、「ポイント5」を生かした子ども主体の授業を展開することができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進
実施内容(進捗実績)	
実施事業	移動図書館の巡回や、おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進
実施内容(進捗実績)	
実施事業	学校図書館の機能を活用した授業の改善
実施内容(進捗実績)	「学校図書標準」の数値を達成している学校数は13校中4校で、現在も達成率は30.7%だが、未達成でも蔵書数が増えている学校が多い。全ての小中学校で「湖南省図書流通システムを活用した授業」および「学校図書館の機能を活用した授業」が実施されている。授業中での学校司書の果たす役割について研修会を実施することで、授業者と学校司書とが連携して授業を実施できるようになってきている。学校司書が授業の導入で子どもにブックトークをすることで、子どもの学習課題への興味関心を高めることができ、子ども主体の授業を展開することにつながっている。また、学校司書の持つ専門的な知識を生かして、子どもに本の目次や索引の使い方等について支援することで、子どもは本を使って自分の力で調べることができるようになり、「さらに自分で調べたい」という学習への意欲が増している。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進	学校図書館支援センター事業を活用することにより、本の充実、司書等の配置、授業改善支援等の取組を推進した。(学校教育課) 関係各課の推進体制を調整する仕組みづくりや推進項目についての取組を把握する進行管理の方法については検討が進んでいないが、家庭教育講座の第1回目のテーマを「絵本」にするなど、啓発を行った。(生涯学習課)	A B C D
移動図書館の巡回や、おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進	移動図書館の巡回等で、子どもと本との出会いの場を提供するとともに、乳幼児健診でのブックスタート、保育園・幼稚園・子ども園の園児を持つ保護者と先生向けに、子どものころから本に親しむために周囲の大人が関わることの大切さを伝えるための出前講座を開催するなど、身近な大人に読み聞かせの大切さを理解してもらう活動を行った。(学校教育課) 移動図書館は市内全小学校9校を巡回した。おはなし会の参加人数は1,298人。平成28年度は1,293人だったので、わずかであるが上回った。(図書館)	A B C D
学校図書館の機能を活用した授業の改善	市内全小・中学校で「学校図書館の機能を活用した授業」一人一実践を進めることができた。文科省指定事業協力校の取組を含め、各校の取組を実践事例集としてまとめ、市内各小・中学校に配布した。(学校教育課)	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市内全小・中学校で「学校図書館の機能を活用した授業」一人一実践を進めることができているが、学校によって取組に差があるため、どの学校も取組推進ができるようにしていく必要がある。また、新学習指導要領に対応した図書が少ない現状がある。(学校教育課) 「湖南省読書の魅力種まきプラン」の策定から3年が経過した。おおむね5か年計画であることをふまえ、関係各課の取組状況や課題、連携が図れているかなどを把握することが必要である。(生涯学習課) 平成30年度は移動図書館の小学校への巡回を休止する。(図書館)
改善の方向性	市内小・中学校に予算を計画的に配当し、外国語教育等、新学習指導要領に対応した図書の購入を進める。継続して「学校図書館の機能を活用した授業」一人一実践を進め、授業実践を収集し授業づくりのヒントとする。(学校教育課) 関係各課の取組状況を調査し、推進状況を把握するとともに、関係者会議を開催するなどして連携状況や課題などを確認する。(生涯学習課) 来年度の移動図書館の巡回場所は市内の全まちづくりセンターとし、土・日曜日の巡回となるため、児童・生徒の利用を促す。(図書館)

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊晋
担当者	長谷川洋介

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	1	子どもの体力向上への取組

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校体育の充実		
実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	小学校の「10分間運動」については、時間の確保の関係で毎日実施することはできなかった。そのため、「新体力テスト」で大きな成果が表れなかった。
改善の方向性	学校の実態に沿った形で「10分間運動」は継続する。また、体育の授業において『効果的な体力向上』の授業実践の研究を深める。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組
取組内容(活動指標)	各校において、体力向上に向けた内容(筋力アップトレーニング・持久力アップトレーニング等)を、年間指導計画の中に計画的に位置づけて取り組む。
目標(数値目標)	市内小学校1校(研究指定)の「10分間運動」の取組の様子を各校に紹介することにより、教科体育の充実と新体力テストにおける記録の向上を目指す。
達成効果(成果指標)	運動することを通して、自分の健康の保持増進に関心を持ち、体力向上にも繋ぐことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組
実施内容(進捗実績)	各小学校の実態に応じ、「10分間運動」などを計画的に取り入れるなど、体力向上に向けた取組を進めている。また、1学期に各校『新体力テスト』を実施し、今後の取組に活かすべく結果の検証を行っている。 さらに、今後発表される全国や県の結果とも比較も行い、体力・運動能力の向上にむけて具体的な実践につなげていく。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
体力・運動能力の向上に向けた取組	全ての小学校で「10分間運動」を定期的に行うことができた。そのことが児童の運動に対する興味関心を高めることにつながった。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	小学校の「10分間運動」については、時間の確保の関係で毎日実施することはできなかった。そのため、「新体力テスト」で大きな成果が表れなかった。
改善の方向性	学校の実態に沿った形で「10分間運動」は継続する。また、体育の授業において『効果的な体力向上』の授業実践の研究を深める。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	井澤 健人

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	1	子どもの体力向上への取組

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	子どものスポーツ機会の充実	
実施事業	多様なスポーツを体験できる機会の提供	継続
主な財源 (千円)	歳入	
	歳出	

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子どもの体力や運動能力が低下しているとともに、運動する子どもとしない子どもの二極化が進んでいる。運動しない子どもの数を減らしていくことが課題である。
改善の方向性	子どもへの運動する機会を提供し、スポーツの楽しさを体験してもらう。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	多様なスポーツを体験できる機会の提供
取組内容(活動指標)	子どもにスポーツの楽しさを体験してもらう機会のひとつとして、新規イベント「SOMPOボールゲームフェスタ」を実施する。広く参加を促すため、適切な広報を行う。
目標(数値目標)	イベント募集定員に達する参加者を集め、スポーツを体験してもらう。
達成効果(成果指標)	子どもがスポーツを経験してスポーツに対する関心を高めることができ、運動しない子を減らすことが期待できる。また、スポーツが好きな子どもを増やすことによりスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブへの参加促進にもつながることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	多様なスポーツを体験できる機会の提供
実施内容(進捗実績)	事業開催者である日本トップリーグ連携機構と協議し、10月4日に現地調査及び打合せを行う予定である。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
多様なスポーツを体験できる機会の提供	「SOMPOボールゲームフェスタ」は、180人の参加があり、参加者がスポーツを体験でき楽しめる機会を提供できた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子どもの体力や運動能力が低下しているとともに、運動する子どもとしない子どもの二極化が進んでいる。運動しない子どもの数を減らしていくことが、引き続きの課題である。
改善の方向性	子どもへの運動する機会を提供し、スポーツの楽しさを体験してもらう。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊晋
担当者	長谷川洋介

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	2	学校保健の充実

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校における健康教育の充実		
実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学習をする機会が少なく、児童生徒に継続した指導が十分できていない。
改善の方向性	年間を通して計画的に学習する場を確保する。(保健体育、学級活動、道徳等さまざまな教科で学習する場を作る。)

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組
取組内容(活動指標)	薬物乱用防止教育を推進するために、年間計画を立て一年間を通した学習にする。また、健康福祉部との連携(保健士を学校へ講師として招き、専門的な知識の伝達をお願いしています。)を図る。
目標(数値目標)	各学校において、現行の学習内容を確実に継続する。また、さまざまな学習機会を利用して薬物の危険性について学ぶ機会を設ける。
達成効果(成果指標)	学校が年間を通して薬物乱用防止教育を行うことにより、薬物の危険性を学び、健康な生活習慣を心がけるようになる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組
実施内容(進捗実績)	外部講師を招いての講演や、保健体育の授業の実践を通して、専門的な知識の習得を目指した学習を進めることができています。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組	全ての小中学校で、外部講師等による専門的な学習を行うことができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学習をする機会が少なく、児童生徒に継続した指導が十分できていない。
改善の方向性	年間を通して計画的に学習する場を確保する。(保健体育、学級活動、道徳等さまざまな教科で学習する場を作る。)

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊晋
担当者	長谷川洋介

1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	3	食育の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校における食育の推進		
実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	朝食摂取状況調査の結果では、年々摂取者が減少しており心配である。児童生徒への指導だけでなく保護者に対する食への啓発が必要である。
改善の方向性	『保健だより』『給食だより』の内容を工夫し、保護者と協力した食育の推進を図る。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進
取組内容(活動指標)	食育指導を推進するために、健康福祉部と連携して計画的に進める。また、各中学校家庭科との連携を図る。
目標(数値目標)	健康推進員やボランティアと連携して、各中学校において、ふれあい食育教室を開催することにより、食に対する関心を高める。
達成効果(成果指標)	学校と地域が連携した、ふれあい食育教室を開催することにより、生徒が食に関心を持ち、朝食の大切さや栄養バランスを考えた食生活を心がけるようになる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進
実施内容(進捗実績)	各校年間計画に沿って、健康推進員やボランティアの方々の協力を得ながら、食に対する意識の向上に努めているところである。 「ふれあい食育教室」を開催している学校もあり、地場産物を利用して郷土料理をつくったり、学校の畑でとれた収穫物を保護者とともに調理するなどして食に対する関心を持つような取組を行っている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
健康湖南21・食育推進計画の推進	健康推進員やボランティアの方々の協力により、各校の要望に沿った形で充実した体験活動ができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	朝食摂取状況調査の結果では、年々摂取者が減少しており心配である。児童生徒への指導だけでなく保護者に対する食への啓発が必要である。
改善の方向性	『保健だより』『給食だより』の内容を工夫し、保護者と協力した食育の推進を図る。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊晋
担当者	長谷川洋介

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	1	安全教育の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	安全教育の実施		
実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	避難する状況はさまざまであり、今後多様な訓練の実施が必要である。
改善の方向性	各校の防災コーディネーターを中心に、あらゆる場面を想定した訓練を行う。(休憩時間災害発生時・引き渡し訓練等)

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施
取組内容(活動指標)	年度当初から交通安全教室や避難訓練を、関係機関と連携して計画的に実施する。
目標(数値目標)	交通安全教室や避難訓練を通して児童生徒が危険を予測した動きを取ることができるようになるとともに、自分の命は自分で守っていこうという意識を持たす。
達成効果(成果指標)	児童生徒が交通安全に気をつけることにより、交通事故が減少する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施
実施内容(進捗実績)	全ての小中学校において、消防署と連携し助言を活用した避難訓練等安全教育をすすめている。交通安全教育については、今年度、中学1年生の自転車事故が多発している実態があり、緊急の取組として、湖南省中学1年生全員を対象とした交通安全教室(スタントマンによる実演)を実施し、交通安全意識の向上を目的としている。(10/30(月)実施)

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
各校園における交通安全教室・避難訓練の実施	全ての学校において、消防署と連携した避難訓練の実施ができた。そのことにより、専門的な指導を受け実践的な訓練となった。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	さまざまな災害の可能性があり、今後多様な訓練の実施が必要である。
改善の方向性	各校の防災コーディネーターを中心に、あらゆる場面を想定した訓練を行う。(休憩時間災害発生時・引き渡し訓練等)

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	林 清隆

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	1	安全教育の推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	通学路の安全対策	
実施事業	「湖南省通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検および対策の実施	新規
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費 1,101

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	事務局としてスケジュールに基づき適切な進行管理をするとともに、効果把握を含めた、より実効性のある3か年プログラムの定着に努めることで、通学路の安全対策が着実に進むことが必要である。
改善の方向性	会議の機会を利用するなどして関係機関と協議を行い、効果把握の方法等を含め、より実効性のあるプログラムに改善し定着を図る。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「湖南省通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検および対策の実施
取組内容(活動指標)	関係機関と連携をとり、9月に各小中学校から2か所以内で通学路危険箇所改善要望書の提出を受け、関係者による合同点検を実施し、通学路安全推進会議において対策の検討を行う。検討結果は、一覧表として年度末に公表する。また、改善実施状況および効果把握についても定期的に確認を行い、結果を公表する。
目標(数値目標)	プログラムに基づき、事務局として関係機関と連携をとり、会議および合同点検の実施や対策、対策状況の公表までの一連の流れについて適切な進行管理を行うとともに、3か年プログラムの定着に向けて見直しや調整を継続する。累積対策箇所数が前年度を上回るようにする。
達成効果(成果指標)	通学路安全推進会議やプログラムが適切に機能することで、通学路の危険箇所に対する対策がすすみ、通学路の安全確保を図ることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「湖南省通学路安全推進プログラム」に基づく合同点検および対策の実施
実施内容(進捗実績)	5/10に第1回通学路安全推進会議を開催した。9月に市内小中学校から、21か所の改善箇所要望書の提出があり、10月下旬に合同点検を実施することとして日程の調整を行った。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「湖南省通学路安全推進プログラム」に基づく合同点検および対策の実施	予定通り、合同点検を実施し学校に報告したほか、3月に対策一覧表と箇所図を公表した。また、過年度の要望についても対策実施状況を確認し公表した。累積箇所数は89箇所、前年度を上回った。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	事務局としてスケジュールに基づき適切な進行管理を行うとともに、通学路の安全対策を着実に進めていくことが必要である。また、ソフト面においては、学校や地域との連携を強化していく必要がある。
改善の方向性	会議の機会を利用して関係機関と協議を行い、連携して通学路の安全対策を進める。また、さらなる学校や地域との連携強化を図っていく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	城 敬

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	2	開かれた学校づくりの推進

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	絶えず地域へ情報発信する取組		
実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	ホームページ更新の技術的な問題。
改善の方向性	更新ができない学校のパソコン環境を改善する。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信
取組内容(活動指標)	広報を発行し、各校園の取組に関する報告や各校園で課題となっていることを伝える。 特に、小中学校ではHPによっても情報発信を行い、紙媒体では、十分でない子どもたちの活動の様子について伝える。
目標(数値目標)	校園の広報は、月1回以上発行する。HPの更新は、各校のPC管理技術者の状況を踏まえ、できる限り全校園で更新するよう努める。
達成効果(成果指標)	校園からの情報発信は、校園に対する理解を深め、校園の取組に対する保護者や地域の協力を得やすい土壌づくりの一助となる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信
実施内容(進捗実績)	校園広報は、各校園において月1回以上の発行がなされた。HPの更新については、実情に応じ、都度、更新がはかられた。また、特色ある学校行事についても、毎月プレスリリースを行い、情報発信に努めている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信	各月1回以上の広報発行を行うことができた。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	HPの更新に伴う、ハード面とソフト面の整備充実 学校からの情報発信に係る手段と頻度
改善の方向性	学校におけるHP更新に関わる担当教員については、できる限り視聴覚情報教育に長けた教職員を配置するように心がける。なお、各校における校務分掌において、適材適所担当教員が配置できないことも否めない。そのようなときには、情報教育担当教員と密に連携を図るように努める。 学校事務が負担とならないように、広報発信に努める。具体的には、学校報やPTA広報の効果的な発行とプレスリリースによる情報発信に努める。 地域のニーズに応じた情報発信を心がけるも、各校園のハード面やソフト面での環境面における理解を求めていくような機会を大切にしていく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	吉川 昌宏
担当者	山元 正樹

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	1	学校環境整備の充実

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校施設的环境整備事業		
	甲西中学校改築工事事業の実施		継続
主な財源 (千円)	歳入	国庫補助金(学校施設環境改善交付金)	77,678
	歳出	検査手数料、監理委託料、工事費	919,235

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	「甲西中学校改築工事」は、平成28年度と平成29年度に掛けて校舎棟の建設を行うが、工期が非常にタイトであり、平成29年度の2学期から新校舎棟で生徒たちが学校生活を送れるよう、十分な工程管理が必要である。
改善の方向性	平成28年度に引き続き、請負業者と連携を図りながら安全かつ迅速な施工に努める。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	甲西中学校改築工事事業の実施
取組内容(活動指標)	平成28年度から繰り越した工事も含めて、工事の効率化を図ることにより、7月末の校舎棟の完成を進める。
目標(数値目標)	2学期から生徒たちが新校舎棟へ移り、その後、既存校舎の解体等を行い、3月に事業を完了する。校舎棟完成(7月末)、全体事業完了(3月末)
達成効果(成果指標)	耐震補強の出来ていない校舎棟の全面改築を行うことで、生徒たちが安心して安全な学校生活を送ることができるとともに、空調機なども整備された新しい校舎棟でさらに勉学に取り組むことで学力の向上が図れる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	甲西中学校改築工事事業の実施
実施内容(進捗実績)	夏休みに新校舎への引っ越しが完了し、2学期から新校舎を使用している。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
甲西中学校改築工事事業の実施	新校舎を2学期から使用することが出来たが、既存校舎にアスベストが検出されたことにより平成30年5月末までの工期延長を余儀なくされた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	平成30年5月末で工事を完了させられるよう工程管理の徹底を行う必要がある。
改善の方向性	平成29年度に引き続き、請負業者と連携を図りながら安全かつ迅速な施工に努める。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	吉川 昌宏
担当者	山本 雅弘・山元正樹

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	1	学校環境整備の充実

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	効率的な施設改修の推進	
実施事業	改修等における施設管理基準の策定	継続
主な財源 (千円)	歳入	
	歳出	【小学校・中学校】 修繕料、工事請負費
		46,613

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市内各小中学校の老朽化に対する大規模改修などは一定施工することができた。しかしながら、今後は、児童や生徒数が減少していく中で、学校における各教室の活用方法なども考慮しながら、老朽化に対する修繕や改修時の長寿命化対策なども検討を図ることが必要である。また学校施設だけでなく、教育委員会所管の施設についても併せて検討を行い、行政改革推進室で策定する公共施設全体のマネジメント計画に基づいた独自計画を策定する必要がある。
改善の方向性	各学校や社会体育施設、社会教育施設の施設状況を、公共施設白書のデータを基に財源と必要性を勘案しながら、計画的に修繕などが行えるよう学校施設等管理基準などを策定し、限られた財源を有効に活用し、効率的で効果的な管理を行う。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	改修等における施設管理基準の策定
取組内容(活動指標)	既に策定された公共施設白書の学校施設データを基に各施設の状況を分析し、策定される公共施設マネジメント計画に併せ、計画を策定する。
目 標(数値目標)	計画に基づいた学校施設管理が行えるよう、また、予算費目に計画における改修内容や財源が反映できるよう計画を策定する。
達成効果(成果指標)	計画を策定し実施することで、教育委員会所管の学校施設や社会体育施設、社会教育施設の今後のあり方の見直しを行うことで、各施設の有効活用や効果的な改修を行うことができる。また、計画に基づいた改修などを行うことで、必要最小限の改修が可能となり、財源の抑制も期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	改修等における施設管理基準の策定
実施内容(進捗実績)	計画内容取り纏め中

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
改修等における施設管理基準の策定	教育施設管理計画の素案を作成することができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	国の方針により平成32年度までに学校施設長寿命計画を策定し、より具体的な改修の内容や予定時期及びコスト等を示さなければならない。
改善の方向性	平成30年、31年度において学校施設長寿命計画を策定し、より計画的な施設の改修や維持等を行っていく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	吉川 昌宏
担当者	宮口 裕紀恵

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	2	学校給食の充実

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校給食の効率的な運営	
実施事業	センターにおける各種研修会等の実施 アレルギー対応食の充実	新規
主な財源 (千円)	歳入	
	歳出	人件費
		7,870

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	昨年に引き続き、給食センターでのさまざまな研修会の開催を検討する。 現在アレルギー対応食として実施している「卵」以外の対象品目についても追加できるよう検討を行う。
改善の方向性	各学校での個別指導や食に関する研修だけでなく、学校の栄養教諭を集めた研修会や保護者役員を対象とした研修会の開催について、各学校と調整し、趣旨を理解してもらうよう努める。 アレルギー対応食については、各学校の状況を把握・分析し、出来る限り早い段階で実施できるよう努める。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	センターにおける各種研修会等の実施
取組内容(活動指標)	今年度は、試食会の内容について、対象者を広げるなどの取組を行い、また、県内外からのセンターへの視察を積極的に受け入れる。また、各学校の児童・生徒の視察についても分かりやすい説明資料の提供や、調理現場の調理工程への説明など、子どもたちが給食をさらに好きになる取組を行う。 研修などについては、各学校での個別指導だけでなく、栄養教諭を中心にセンターでの合同研修会や保護者役員向けの研修会の開催など、新たなセンターでの研修会の実施に向けた検討を行う。
目標(数値目標)	試食会を市内対象ではなく、市外も含めた試食会の実施や、保護者対象の試食会の実施など新たな形での試食会を実施する。 各学校で実施していた食に関する指導や研修会を、センターにおいて合同研修会として実施する。
達成効果(成果指標)	さまざまな人々に試食会を行うことで、給食の良さや充実した調理状況を見もらうことでの安全で安心した調理への理解を深めてもらうことができる。また、センターにおいて合同研修会を新たに開催することで、各学校での取組や情報交換、また食に関する共通認識が生まれ、食育指導などの充実を図ることができる。
実施事業	アレルギー対応食の充実
取組内容(活動指標)	現在は、最も対象者の多い品目である卵を対象としているが、今年度も品目を増やす検討を進める。また、さまざまなアレルギー食を持つ子どもたちもできるだけ食べられるよう、アレルギーフリーの食材を活用したメニューの検討を行う。
目標(数値目標)	今年度、対象品目についての検討を行い、平成29年度以降に出来るだけ早い時期に対象品目を増やすことを目指す。また、アレルギーフリーの食材を活用したメニューも提供する。
達成効果(成果指標)	対象品目を増やすことにより、さらにアレルギーを持つ子どもたちへ給食を提供することができる。また、アレルギーフリーの食材を使ったメニューを提供することで、現在より多くの子どもたちが同様の給食を食べることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	センターにおける各種研修会等の実施
実施内容(進捗実績)	4月5日食指導主任会実施(アレルギー対応食について栄養士より説明) 8月29日センター試食会の実施(21名参加) 各学校での保護者向け試食会における栄養士による説明を実施
実施事業	アレルギー対応食の充実
実施内容(進捗実績)	代替食としては卵のみ(月1回程度)実施。その他の対応としては添加物(ふりかけ・デザート等)をアレルギーフリー食で提供している。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
センターにおける各種研修会等の実施	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月5日食指導主任会 平成29年8月29日試食会 平成30年1月25日甲賀・湖南食育推進協議会研修会 平成30年3月1日指定業者連絡会 	A B C D
アレルギー対応食の充実	卵アレルギー以外の除去食給食を実施することは、コスト面、安全面で難しく、卵アレルギーの対象者も増加していることから、可能な限り卵だけでなく、乳については除去した食材を利用した献立を立案し対応してきた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	卵アレルギー対象者が来年度(未満児以上となる対象者・新入園児)増加するため、卵以外のアレルギーについて対応し、給食を提供していくことは更に困難であると予想される。
改善の方向性	可能な限り、卵や乳等を除去した食材を利用した献立を立案していく。現在対応している卵アレルギーに関しては、月1回除去日を設けているが、学期に1回できる月を増やす等して拡充していきたい。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	藤本 聡子・吉村里佳

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	1	教師力・組織的対応力アップへの取組

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	教職員の資質と実践的指導力の向上		
実施事業	①教師力アップセミナーの充実 ②東京学芸大学との教育連携事業「湖南省現職教員アドバンス研修」		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	旅費	661

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	教師力アップセミナーをさらに時代のニーズや教員のニーズに即した内容にしていく必要がある。
改善の方向性	新学習指導要領に即した内容について学ぶことができるような講座を教師力アップセミナーに組み込むなどしていく。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	教師力アップセミナーの充実
取組内容(活動指標)	「講師は湖南省の教職員が行う」、「自分のニーズに合った講座を選択する」をコンセプトに他機関と連携した講座などを組み入れる「教師力アップセミナー」を夏季休業中に実施する。
目標(数値目標)	「重ねる」をキーワードに小・中教育研究会主催の大会・講座、いじめをなくそうサミット等を講座に位置付けることで、教職員の校務分掌や教職員のニーズをより加味した「教師力アップセミナー」にする。そのことにより、講座での受講者数の差を軽減する。
達成効果(成果指標)	「教師力アップセミナー」の講師は、自己の実践の整理・分析等に繋がるだけでなく、「伝わりやすい方法」を考える中で、さらに授業改善へと結びつけることができる。また、受講者のニーズに合った講座を受講することで、2学期以降の実践へと繋ぐことができる。
実施事業	東京学芸大学との教育連携事業「湖南省現職教員アドバンス研修」
取組内容(活動指標)	参加対象は、「学力向上ワーキンググループ」や「実践はたからもの事業」の過去の優秀賞受賞者、学校長の推薦によるものとする。意欲や向上心のある教員を、東京学芸大学に派遣し、幅広い視野を身に付ける機会を提供する。
目標(数値目標)	若手中堅教員の授業力向上と、総合的な資質向上を図る。
達成効果(成果指標)	「アドバンス研修」受講者は、学んだ授業改善の方策を2学期の自分の実践に繋ぐとともに、市内各校へ研修成果を普及し、教員の授業改善に対する意欲を向上させることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	教師力アップセミナーの充実
実施内容(進捗実績)	甲賀市とも連携をしながら30講座を実施した。一教職員につき一講座以上を選択し、のべ616名の参加があった。実践に即した研修であったため、積極的に参加する教職員の姿が見られた。
実施事業	東京学芸大学との教育連携事業「湖南省現職教員アドバンス研修」
実施内容(進捗実績)	平成29年8月22日から平成29年8月25日に各校より16名の参加により研修を実施した。受講者全員から満足だったとのアンケート結果を得た。各校の職員研修等で研修報告会を持ち、伝達しているところである。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
教師力アップセミナーの充実	甲賀市とも連携をしながら30講座を実施した。一教職員につき一講座以上を選択し、のべ616名の参加があった。プログラミング教育や外国語教育、道徳教育等、新学習指導要領に即した研修についても実施することができた。実践に即した研修であったため、積極的に参加する教職員の姿が見られた。	Ⓐ B C D
東京学芸大学との教育連携事業「湖南市現職教員アドバンス研修」	研修で学んだことを各校で広めることができた。また、参加者の湖南市教職員としての意識を高めることができた。	A Ⓑ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	外国語教育についての研修を実施したが、小学校では教科化が控えているため、さらに詳しい研修を実施していく必要がある。また、東京学芸大学と教育連携協定に基づいた研修としてより効果的な研修になるようにすることが課題である。
改善の方向性	外国語教育に関する研修を増やし、新学習指導要領に即した内容について学ぶことができるような講座をさらに組み込んでいく。また、開講式を東京学芸大学で実施することとし、当日のプログラムを工夫する。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	堀 早苗

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	1	教師力・組織的対応力アップへの取組

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	組織対応と外部機関との連携強化		
実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	報償費(謝礼)	244

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	課題が複雑化しているケースへの関わりについて、解決の糸口が掴みづらい。きっかけとなった原因の把握があいまいなケースも多く、家庭環境も含めた背景の再アセスメントが必要である。
改善の方向性	関係機関がより連携し支援を行うことで、違う角度でのアセスメントや多様な気づきにより、継続的な支援が展開できるようになる。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク
取組内容(活動指標)	子どもや保護者、学校の課題に対して、市スクールソーシャルワーカーや巡回相談と連携しアセスメントを立て、長期目標、短期目標や役割分担を明確にしたケース会議の実施に取り組む。教育と福祉の連携の中で、子ども支援を行っていく。
目標(数値目標)	園・学校や関係機関が、子どもや家庭を支える仕組みづくりを目指す。
達成効果(成果指標)	S S Wの中学校区へ1名配置が実現した今年度は、巡回相談やS S W、S Cと連携をより深めケース会議の効果的な運用について各校へ働きかける。また配置のない学校への支援も取り組んでいく。 多様なケースへの対応を迅速に行う。学校教育課に留まらず、他課、他機関と学校との繋ぎを重点とし、その取り組みを周知することで連携の充実に努め、保護者や子どもたちの登校意識や家庭環境の安定を図る。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク
実施内容(進捗実績)	学校からの相談ケースをきっかけにSSWの派遣を新たな学校へ働きかけることになった。家庭支援も含めた学校現場での支援について、福祉事務所、発達支援室、ことばの教室などと連携に努めた。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク	ケースに応じて連携機関の住み分けをしながら対応することができた。学校からつないでもらうタイミングや、子どもたちのアセスメントについて家庭支援を含めた取組を進めることができた。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	教育と福祉の連携という視点を持ってもらうにはまだまだ周知が必要な状況がある。
改善の方向性	転任や新任の先生方だけでなく、学校全体に知ってもらうために、年度当初に学校訪問を行っている。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	吉川 昌宏
担当者	山本 雅弘・山元 正樹

1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	2	コスト意識の醸成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校現場における管理意識の醸成		
実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化		継続
主な財源 (千円)	歳入		
	歳出	人件費(教育総務課担当職員分のみ計上)	8,500

3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>日常、各学校においてさまざまな修繕箇所が発生しているが、その中には現場の管理不十分により発生しているもの、また業者に発注するまでに詳細な状況確認により自分たちでの修繕が可能なものも少なくない現状である。今後は、教育委員会事務局と教職員が共に限られた財源を必要な修繕に充て、自分たちでも日々の維持管理を積極的に進めるといった意識を醸成させることが必要である。</p> <p>また、地域のボランティアの方々やPTAの方々による奉仕作業についても、施設の管理に必要な作業をお願いするなど、修繕範囲の検討を行う必要がある。</p>
改善の方向性	<p>現場での学校運営を行う教職員の施設管理に対する意識の向上を図るため、校長・教頭を中心に現場での施設管理の必要性を説明し、教育委員会事務局と連携しながら修繕方法などの検討を行うことで、財源のいる業者への発注修繕を真に必要な箇所へ充てることができる。</p>

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化
取組内容(活動指標)	年度初めに行う学校予算配当説明会において、昨年度の修繕状況や日常の維持管理により防げる修繕などについて説明し、教頭を中心とした教職員の施設管理に対する意識の向上を図るとともに、教育委員会事務局との連携を強化する。
目標(数値目標)	昨年度の修繕内容を基に、教職員と教育委員会事務局が連携し、修繕の難易度に基づき、自分たちで修繕可能なものについては、自ら修繕を行う。
達成効果(成果指標)	教育委員会事務局と教職員が連携して施設の維持管理を行うことにより、児童や生徒たちにも施設を大切にすることが芽生えたとともに、限られた財源の有効活用を図ることができる。 また、日常の維持管理の徹底により、発生する修繕を抑制することができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化
実施内容(進捗実績)	修繕が必要な箇所において、各校長、教頭等と立会を行い、状況を確認しながら修繕方法や原因等を検討することができ、教職員の施設管理に対する意識の向上や教育委員会との連携を強化することができた。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
行政と教職員における施設管理の連携強化	修繕が必要な箇所において、各校長、教頭等と立会を行い、状況を確認しながら修繕方法や原因等を検討することができ、教職員の施設管理に対する意識の向上や教育委員会との連携を強化することができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	教育委員会事務局と教職員が共に限られた財源を必要な修繕に充て、自分たちでも日々の維持管理を積極的に進めるという意識を醸成させることが必要である。
改善の方向性	平成29年度に引き続き、行政と教職員における施設管理の連携強化を行いながらコスト意識を高めていく。

平成29年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	川邊 晋
担当者	吉村 里佳

1. 評価項目

基本的方向	1	学校が主体となって主権者教育に取り組む。
政策	1	学校・地域が連携して、夢と志を育てる主権者教育推進に取り組む。
施策	1	夢と志の持てる子どもの育成

2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	主権者教育の推進	
実施事業	主権者教育推進事業	新規
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	0

3. 今年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	平成28年の公職選挙法改正に伴う選挙権を有する者の18歳への引き下げに伴い、主権者教育の重要性が提唱された。主権者教育の目的を、単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるのみならず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を発達段階に応じて、身に付けさせるとした。しかし、学校現場では、十分にこの教育の趣旨が理解されていない。
改善の方向性	校長会、教頭会、教務主任会等を、核として主権者教育が夢と志を育てることにつながることを理解し、湖南省教育が目指す根っこが太くなることを浸透させる。また、コミュニティースクールの取り組みとリンクさせ地域力を活用した主権者教育推進に取り組む。

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	
取組内容(活動指標)	まず、教頭会において、①児童会、生徒会活動の活性化に向けた具体的な取組 ②地域行事にスタッフとして参画している活動 ③自分の意見を社会に発信する取組 ④社会科等における政治の仕組みなどの学習 ⑤主権者教育を教職員が意識的に取り組むことにより、夢と志を育てるには教頭としての役割は。について交流して各校で実践している主権者教育をあぶり出す。その後、校長会・教務主任会でさらに交流し深める。
目標(数値目標)	すべての教職員が主権者教育に関わるようにする。CSの中にも、主権者教育を位置づける。
達成効果(成果指標)	主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を発達段階に応じて身につける。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	
実施内容(進捗実績)	教頭会、教務主任会にて各校での主権者教育の取組をあぶりだし、協議を行った。更に湖南省教育だよりにて全教職員、地域に学校での主権者教育にかかる取組について発信をした。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
主権者教育推進事業	各校にて、主権者教育を意識した実践に取り組んだ。取組例としては、甲西中学校3年生で実施した湖南省の課題を見つけ提案する「甲西中議会」、水戸小学校6年生で実施した自分たちの願いを実現する仕組みを学ぶ学習が挙げられる。	A B C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	各校で主権者教育の意識化を図ることはできたが、深めるところまではできなかった。
改善の方向性	発達段階に応じて一覧表を作成し、各校にて、計画的に、かつ、重点単元を決めて取り組んでいく。